

月言元  
三巻の種本 全





三才の種本

目録

- 一 端明習書の類
- 一 文句入部一
- 一 本まじり部
- 一 二より部
- 一 三より部
- 一 部一

野村銀次郎編輯







習うことなり

夕ぐさの習うこと 尾と菊を

東家一の長り 新代也

むふ作り 佃仲由とふあが

えもそへアレ上野山月が

やびる石所えくそへ

日 柳じし

夕ぐさ 控場とて物屋形舟

月まじり 隅田川お牙と燈

えんそへアレ川風が吹ま

はるれぬまとはやりの

日 吉原ひら

はらぐさよまあえとてむ

さきとまはしとてむ

のうけと家とてむ

はる 妓夫のせ



まのあ

かひひとつの智つこ 新道しよと  
かひひとつの智つこニッえおあへの  
まよりつは彼の人よ首尾あめ  
夜半のひし杖つらつとまじもと  
けぬ帯つまじとつとぞ胸の内

我もの智つこ 柳を並枝  
七年の野をさへ海さ林のさる  
毛後のまみの女帯花杖杖一  
さいふまのぬあがめつとさへ  
とあく人もあめ夕まぐれまよ  
風情があるまじ

まじつこの智つこ はしつあ  
あくむのあも我つまつまされ  
てまじつこのあまあつまじつあ  
あく夜半まじつ鐘もあつまめ

松風も月も笑ふ地のあ

記伊の國の智つこ 三抱き國を  
コレラのとまは施を樹はは政府ぞ  
たせ給へる規則もまもつと  
皆所がかりつとコレラのかまつり  
お荷物もあつとまじつまじつひび  
よん様結今宵の火葬場へ  
チキヤトンチキヤやんのもまじつまじつ  
くろとけまじつまじつおのね  
おとつり死んごまじつ

枕あゝの人の智つこ 住ま揃も  
家の衣ぬかすつとつと下地ハ  
酒のあつとまじつまじつまじつ  
全盛ま何れもつとつとむろの  
なより同支あつとつとつと  
あまよと名代の知屋まじつ



支那のそとく引く風はまよ  
肩尻どわかきあふ

春のあつべの習うこ 新道匠者  
月のあつべまをんと二人つれを

あつべうつつをれありよ引とあそ  
今軽いう舞ひこのあせ

花のふもりの習うこ 三川流志  
まのかがんり應あまをさうよく

うの白化のつまをそり 行のろ  
まのそとそをさうあせしれこの

この詩合まをそあ叫のあそ  
ひつそりと因ぞあけは

梅福の習うこ 三柱亭園地  
梅福あまよりち後の夕屋り

松風まると吹田南まあけうけ  
あつべも福のあつべうつのあま

並木の道なまをさうせしあそ  
秋の夜の習うこ すまあつた吉

あつべあつべあつべあつべあつべ  
あつべあつべあつべあつべあつべ

あつべあつべあつべあつべあつべ  
あつべあつべあつべあつべあつべ

あつべあつべあつべあつべあつべ  
あつべあつべあつべあつべあつべ

あつべあつべあつべあつべあつべ  
あつべあつべあつべあつべあつべ

あつべあつべあつべあつべあつべ  
あつべあつべあつべあつべあつべ

あつべあつべあつべあつべあつべ  
あつべあつべあつべあつべあつべ

あつべあつべあつべあつべあつべ  
あつべあつべあつべあつべあつべ

あつべあつべあつべあつべあつべ  
あつべあつべあつべあつべあつべ



我りの智<sup>ち</sup>こ<sup>こ</sup> 柳家小太夫  
 知<sup>ち</sup>ぢ<sup>ぢ</sup>と<sup>と</sup>お<sup>お</sup>り<sup>り</sup>か<sup>か</sup>い<sup>い</sup>か<sup>か</sup>い<sup>い</sup> 今<sup>いま</sup>の<sup>の</sup>音<sup>ね</sup>尾<sup>び</sup>  
 唐<sup>から</sup>舞<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>き<sup>き</sup>ん<sup>ん</sup> 玉<sup>たま</sup>子<sup>こ</sup> 玉<sup>たま</sup>子<sup>こ</sup> 玉<sup>たま</sup>子<sup>こ</sup> 玉<sup>たま</sup>子<sup>こ</sup>  
 春<sup>はる</sup>の<sup>の</sup>て<sup>て</sup>ら<sup>ら</sup> 目<sup>め</sup>立<sup>たち</sup> 春<sup>はる</sup>の<sup>の</sup>て<sup>て</sup>ら<sup>ら</sup> 目<sup>め</sup>立<sup>たち</sup>  
 玉<sup>たま</sup>子<sup>こ</sup> 玉<sup>たま</sup>子<sup>こ</sup> 玉<sup>たま</sup>子<sup>こ</sup> 玉<sup>たま</sup>子<sup>こ</sup> 玉<sup>たま</sup>子<sup>こ</sup> 玉<sup>たま</sup>子<sup>こ</sup>  
 玉<sup>たま</sup>子<sup>こ</sup> 玉<sup>たま</sup>子<sup>こ</sup> 玉<sup>たま</sup>子<sup>こ</sup> 玉<sup>たま</sup>子<sup>こ</sup> 玉<sup>たま</sup>子<sup>こ</sup> 玉<sup>たま</sup>子<sup>こ</sup>

あ<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>  
 浅<sup>あさ</sup>く<sup>く</sup>も<sup>も</sup>の<sup>の</sup>智<sup>ち</sup>こ<sup>こ</sup> 止<sup>と</sup>丁<sup>てい</sup>吉<sup>きち</sup>  
 浅<sup>あさ</sup>く<sup>く</sup>も<sup>も</sup>の<sup>の</sup>智<sup>ち</sup>こ<sup>こ</sup> 止<sup>と</sup>丁<sup>てい</sup>吉<sup>きち</sup>  
 浅<sup>あさ</sup>く<sup>く</sup>も<sup>も</sup>の<sup>の</sup>智<sup>ち</sup>こ<sup>こ</sup> 止<sup>と</sup>丁<sup>てい</sup>吉<sup>きち</sup>  
 浅<sup>あさ</sup>く<sup>く</sup>も<sup>も</sup>の<sup>の</sup>智<sup>ち</sup>こ<sup>こ</sup> 止<sup>と</sup>丁<sup>てい</sup>吉<sup>きち</sup>  
 浅<sup>あさ</sup>く<sup>く</sup>も<sup>も</sup>の<sup>の</sup>智<sup>ち</sup>こ<sup>こ</sup> 止<sup>と</sup>丁<sup>てい</sup>吉<sup>きち</sup>  
 浅<sup>あさ</sup>く<sup>く</sup>も<sup>も</sup>の<sup>の</sup>智<sup>ち</sup>こ<sup>こ</sup> 止<sup>と</sup>丁<sup>てい</sup>吉<sup>きち</sup>

あ<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>  
 浅<sup>あさ</sup>く<sup>く</sup>も<sup>も</sup>の<sup>の</sup>智<sup>ち</sup>こ<sup>こ</sup> 止<sup>と</sup>丁<sup>てい</sup>吉<sup>きち</sup>  
 浅<sup>あさ</sup>く<sup>く</sup>も<sup>も</sup>の<sup>の</sup>智<sup>ち</sup>こ<sup>こ</sup> 止<sup>と</sup>丁<sup>てい</sup>吉<sup>きち</sup>  
 浅<sup>あさ</sup>く<sup>く</sup>も<sup>も</sup>の<sup>の</sup>智<sup>ち</sup>こ<sup>こ</sup> 止<sup>と</sup>丁<sup>てい</sup>吉<sup>きち</sup>  
 浅<sup>あさ</sup>く<sup>く</sup>も<sup>も</sup>の<sup>の</sup>智<sup>ち</sup>こ<sup>こ</sup> 止<sup>と</sup>丁<sup>てい</sup>吉<sup>きち</sup>  
 浅<sup>あさ</sup>く<sup>く</sup>も<sup>も</sup>の<sup>の</sup>智<sup>ち</sup>こ<sup>こ</sup> 止<sup>と</sup>丁<sup>てい</sup>吉<sup>きち</sup>  
 浅<sup>あさ</sup>く<sup>く</sup>も<sup>も</sup>の<sup>の</sup>智<sup>ち</sup>こ<sup>こ</sup> 止<sup>と</sup>丁<sup>てい</sup>吉<sup>きち</sup>





新入り

かき文句入し給  
あふごころとれし心はほろろ  
めの一ニウ三イ四ウ指切りかきへて  
肴尾知まづ

二人女史とあしきままで(五)  
胸もあらし(今)さういふ  
むらみ人

かきつ陽あけよびうきされ(一)  
でも今日(一)行ん(ま)と(せ)あら(一)  
いつ舌を吐け

人の烟(一)まをば(一)あ(一)の(一)秘(一)  
あ(一)の(一)あ(一)さ(一)け(一)の(一)仇(一)又(一)も(一)ニ(一)ウ(一)ス(一)の  
種(一)な(一)ま(一)く

市川團  
あ(一)れ(一)た(一)あ(一)も(一)た(一)ぞ(一)い(一)じ  
う(一)あ(一)い(一)つ(一)も(一)も(一)か(一)ひ(一)て(一)い(一)え  
せ(一)か(一)と(一)ろ(一)あ(一)こ(一)も(一)か(一)ま(一)く

はし下  
世(一)界(一)を(一)あ(一)ら(一)ま(一)え(一)ん(一)あ(一)ん(一)ん(一)ん(一)  
え(一)り(一)の(一)胸(一)も(一)も(一)い(一)ち(一)も(一)せ(一)ぬ(一)う(一)と  
顔(一)と(一)あ(一)わ

はし下  
あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)  
あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)

あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)  
あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)

あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)  
あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)

あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)  
あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)

あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)  
あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)

あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)  
あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)

あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)  
あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)

あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)  
あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)

あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)  
あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)

あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)  
あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)

あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)  
あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)あ(一)ま(一)



まへも

まへも

富のつのも赤まんまのまへも  
うの他人の傾城まへも  
まへも

たびくが船屋さうきそ出らひ  
（えんどの命づけ）とよ人目  
何れぬまへ

和しとおまへのえらが中へ  
の夜さひるあけさ出 位明し  
やがてそつくる中じやあひ

和しぬそれやどうたふるあれど  
（まきのほろあちあつとられほろ）  
何れぬまへ（二世も三世も  
うまうせ思 よし下子

まよひえんだるあれぬのや  
（まきのほろあちあつとられほろ）  
何れぬまへ（二世も三世も  
うまうせ思 よし下子

一も一なるあひ

早くかおのえおが  
うせさささ書おまへ  
あのはまがみ

春ののとうまへ  
の仲のつ（ほろあちあつとられほろ）  
ろまへ

まよひえんだるあれぬのや  
（まきのほろあちあつとられほろ）  
何れぬまへ（二世も三世も  
うまうせ思 よし下子

まよひえんだるあれぬのや  
（まきのほろあちあつとられほろ）  
何れぬまへ（二世も三世も  
うまうせ思 よし下子

まよひえんだるあれぬのや  
（まきのほろあちあつとられほろ）  
何れぬまへ（二世も三世も  
うまうせ思 よし下子



てなす後の氣はうらみとあは  
うけおかしき一叫一もさまも  
まゝあしぬ  
は内接の妙

うらみ接むらりんかうとあは  
あまはれあんまら起あん一か  
めしてはあのおしり  
あまはれ

ひまつり  
あまはれねど氣まうらへむ  
あまはれのまへ一え一  
クレーとま

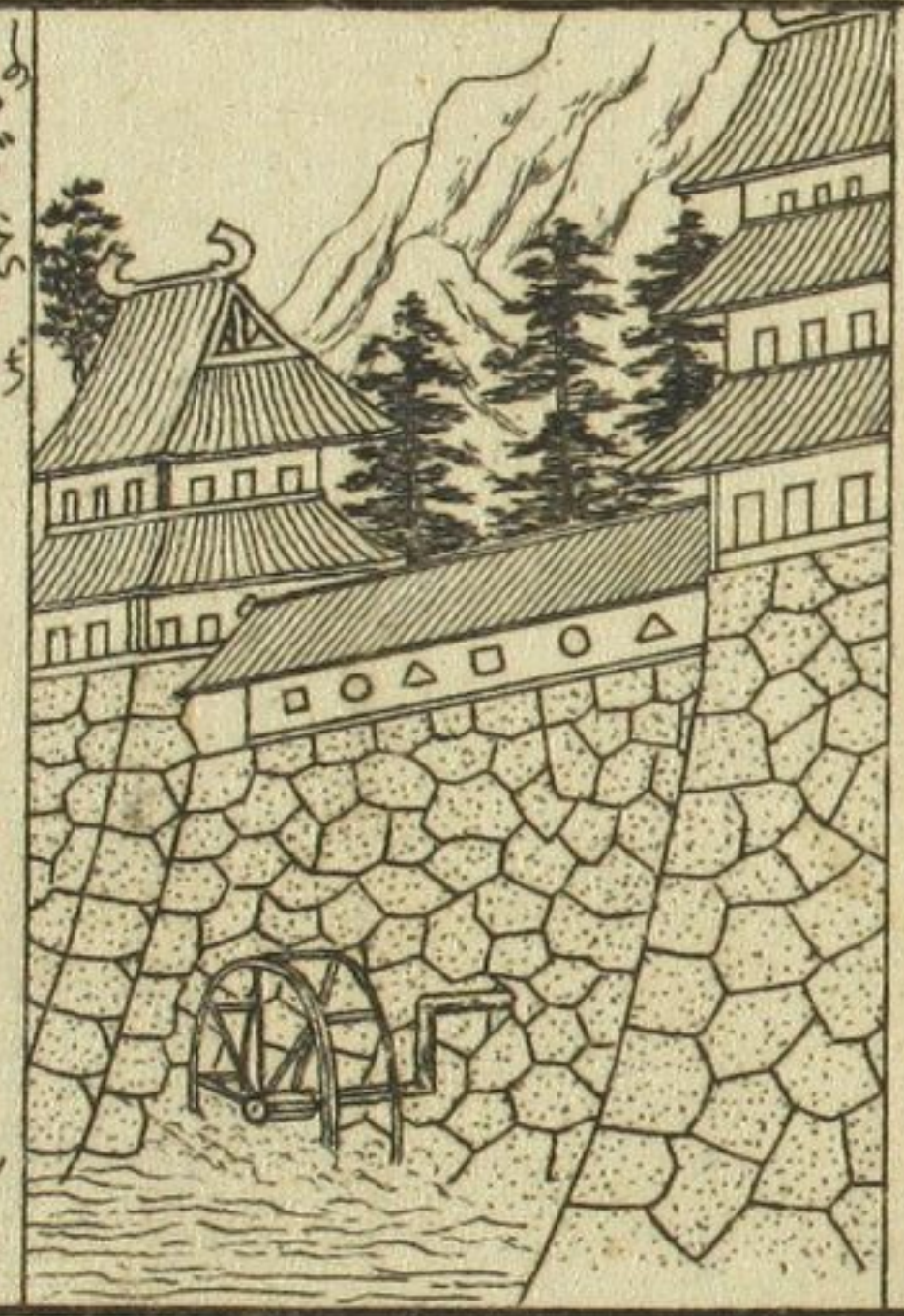
ランプのまへ一そり  
目まそれとうげく  
あまはれねど一  
まらねの妙あまの  
あまの目ねと性まの  
とあまはれ

あまはれ  
あまはれ  
あまはれ  
あまはれ  
あまはれ

本てし端唄

二上  
三下  
一リ

渡の車はらあまらる  
氣で氣がまらあふ  
まらる



あまはれ  
あまはれ  
あまはれ  
あまはれ

あまはれ  
あまはれ  
あまはれ  
あまはれ

あまはれ  
あまはれ  
あまはれ  
あまはれ



香の軟床まののまのかさつたが  
 快いさるをほろりあり今こいふ  
 せだせうきひんる時とすあつけ  
 しわさりと業して見てもあまいて  
 もあわらせんとまぞんあて枕



世の中のいたる世を今こでへん  
 さぬの山びりた酒ごとじてつひそれ  
 ありふきまのまきりそめふ  
 マヤはろね入ぬの鐘  
 ねかりかたて種とあてぞよでも  
 今日ハゆえまるといひつたて

じんド窓志やじりそめふ  
 そま見えや志免せこの書み  
 あは見えや志免せ海はまもまや  
 龍田のさ尾でもあまびるいそへ  
 紅ふがま

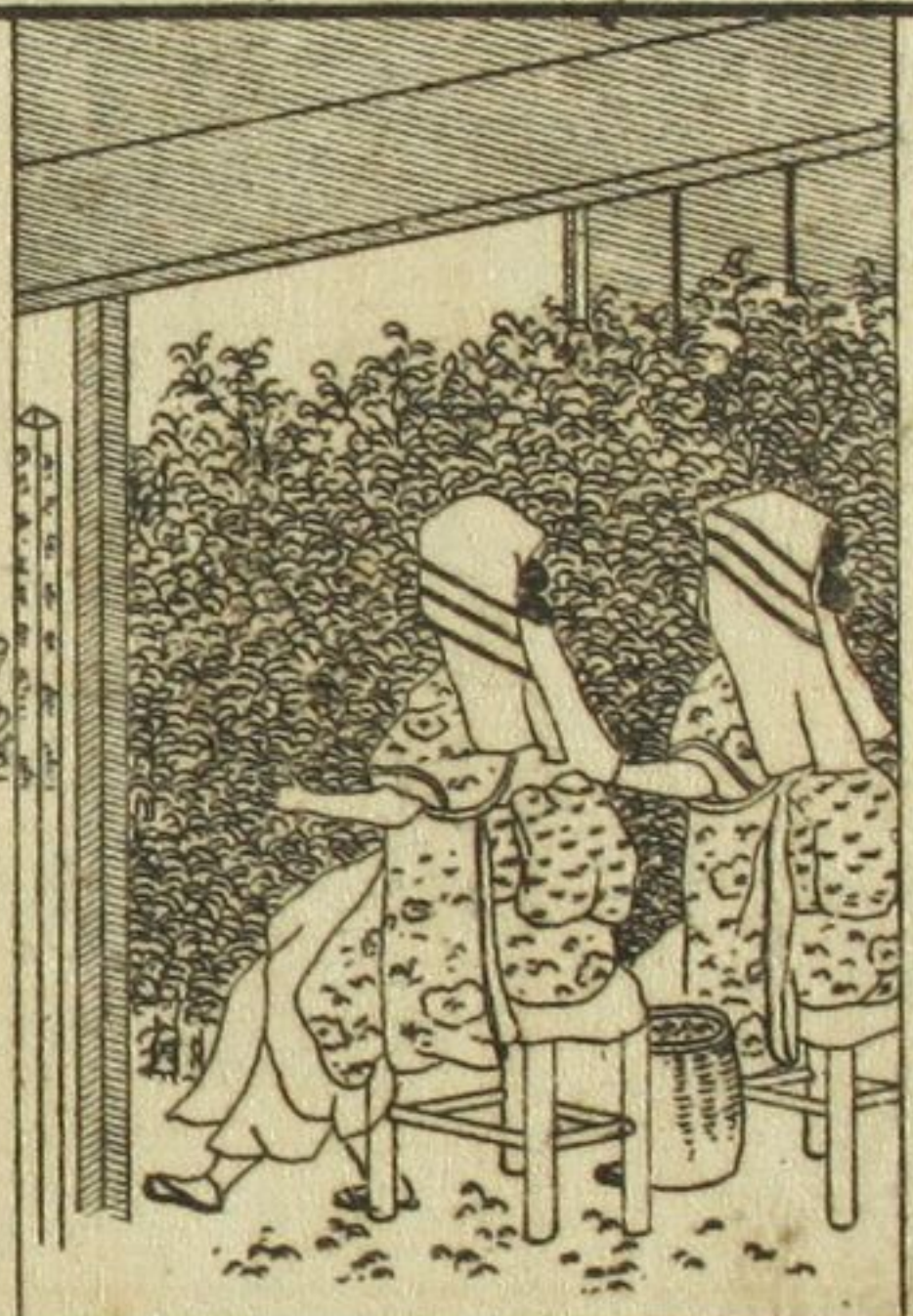
かまへと一生くまある海らのあんの  
 まひ住居ぬい針はりある車細さふ  
 川で布さじ染るもまがいのさあせぬ



せんとて思つせぶるなま森入り  
 夏のさうたの丸ひたがつひあるあて  
 まりふれまのつげの指八まん



ぐのきぬくふ別れもな送り丹  
 宇治の茶どころさあぐの中ふう、  
 さの大若山と人の気ふあふ水ふあふ  
 きも香もあふまじことしあいる  
 浮世ふやあじしいちあちあち  
 茶の中、やあめり



うめがぬきあ柳がまきこころの  
 よいのをそねむのつる夜ひそふ  
 山の月ふあ、いそあ、いそあ、いそあ  
 更にあふ夜の気ふあ、いそあ、いそあ  
 かし先たがひふえう、いそあ、いそあ

目まわりは神ぬれてそいぢりる  
 火の用心もな、いそあ、いそあ



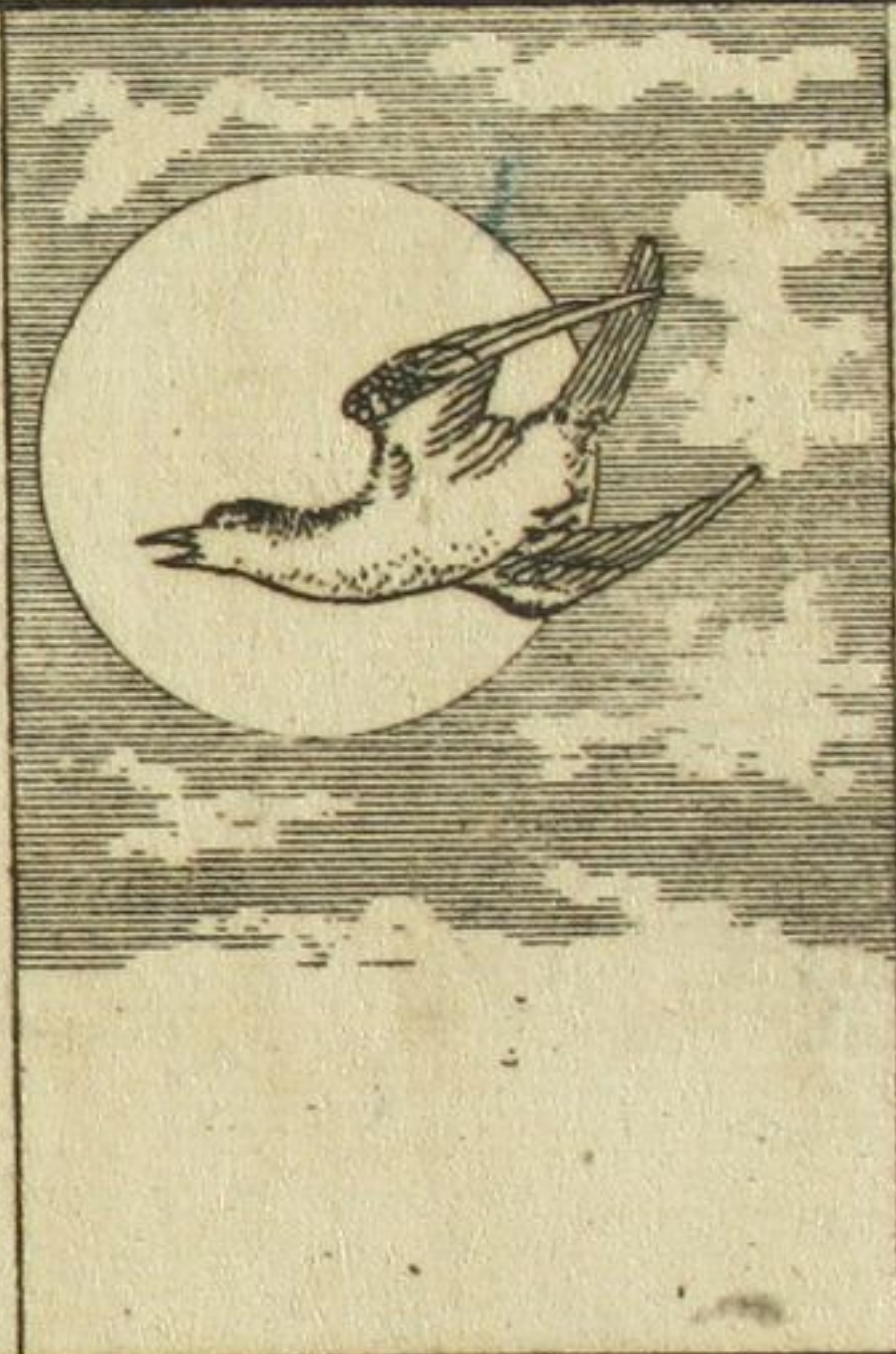
雲のその人、いそあ、いそあ  
 意の中たちふてあ、いそあ、いそあ  
 ぶとんのを、いそあ、いそあ  
 にまきい、いそあ、いそあ

牙のひと、いそあ、いそあ  
 まま、いそあ、いそあ  
 かりま、いそあ、いそあ  
 あく、いそあ、いそあ

まか、いそあ、いそあ  
 三



恋のちも春とくふかけ妹がり  
は冬の夜の川うせさむくまを  
まつまつつききききききき  
わるせがみるま



はくとよほほほほほほほほ  
とんでおまこの何にかおのそいで  
まきぬれつもの新うんいりま  
かいて見つ瘧てまう侍とたより  
あくわの度きふたひより故と  
やく火よりむひの火のあるなひ  
とまつせんせ

今あるいたう上野うほく  
あわうがうまが笑ふとまよか  
あつくとまあて居つけさそ  
あつくとまあて居つけさそ  
て首のいせつのはめごう中  
そりやあつこの

首にまち夜中いごま  
せめてあつとひし  
そのまあつふあつ



今ねのナアあつ  
あつとま  
あつとま



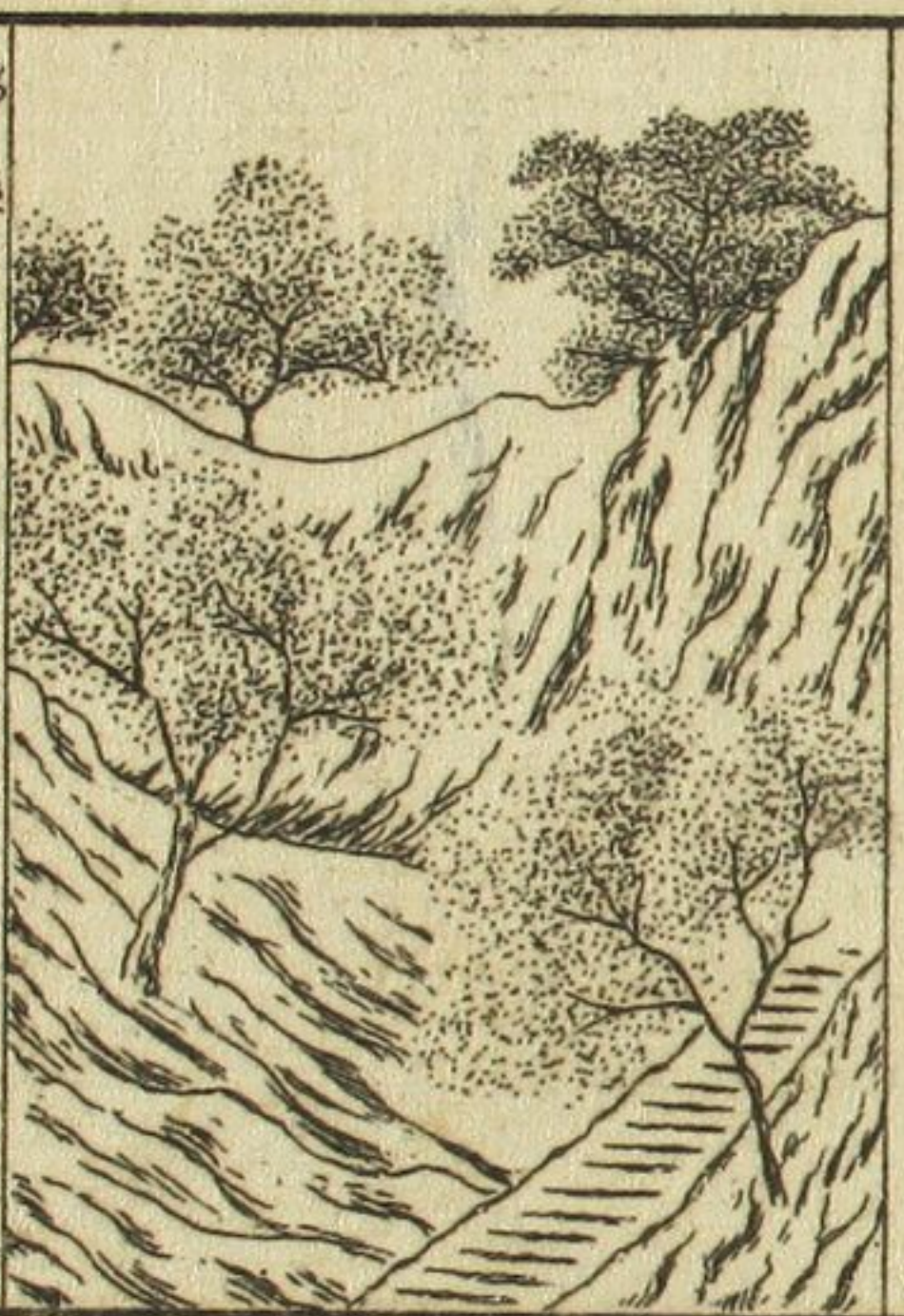
あてけふ氷の日と短うらまを  
床のうち紙と引きたまも毛を  
隠しけこちの人私にがかるい  
何とせうア、森さんまう起るし  
あけがのあゝをみるのうら



人のそしをも何をもうらら  
ああんの外といふはしともある  
まゝみ悲びひのせのうらとと  
いけしの花あまき

秋きやうあうにあつさ志のせ  
て月へ種まへの葉のあ君とま

むねとよまごく父とく  
厂のこゑ、恋いこしこのうら  
花のくもりう遠山の雲う月う  
あゝ君の中とそまくあたる月よ  
うに森さそやまはのそハ路  
も教どうあまぎびやしのえんさめ  
うちやゆしき門をもう



今物ゆひ待用もりつらみだれ  
くゝ人よ関まそまらじや笑がね  
つまど目ふほむほとあたと夕  
くまよ時分のあとの女布花



ちるの夕べのなまぐさふらふらり  
 とある水のぬねれて鏡ぶらぶら  
 花がさうめつ縁うらみ



ちるあふみせつふたせりらよ  
 くとほて居るのとねりありふ  
 ちるはべもるき女乞の志やん  
 がさうめつ中あさう

ちるあふみせつふたせりらよ  
 さますいゑささうのささうもやろ  
 粹さめの子の丁ふさやね花お  
 せんせししがよめさうやんせ

ちるあふみのささうもやろ  
 志やんはま松どわとてあんの  
 いひさうはあさ



ぬまぬ先くは名くらそねら  
 つゆと恋あともあさうが中成  
 いちまるな風が志やまてち  
 くとあてまづし月の鏡

目か恋の書のとりの日記とわ  
 心ひとつとふまぢふとほぢさう  
 け三味線の色もあやあま拍の  
 月とあも志やまてむらなる



りんよかゆへはきのよけふ月日  
 うつのもうへのそら今にけりも  
 世の美理もかもいぬ恋のうつせ  
 川あはぬその日ハるよかるあへ  
 ばくせつのだゆとあるふくじい  
 りどうあひしてキマアがぢぢひ  
 八るんやや



うみてよりくどいぢぢぢと知り  
 るがけいぢぢぢあめく唐志あゆの  
 いつうとけてふくじいいうり  
 くらかくつげの楢きつとけう

ひくむくりりんよやせうあいわい  
 紙とたんで眉毛とくぢぢぢと  
 星とそめじろ帯よあ似あぢぢ  
 兄やあぢせりいとけりぢぢぢ  
 ぬまのむ中の気まゝは



座根のまぢれとかけくいそく  
 いねる肌ひねぢぢぢぢぢぢぢ  
 うと似まのあぢぢぢぢぢぢぢ  
 何ぢぢのあぢぢぢぢぢぢぢ  
 も秋をてまぢぢ今ぢぢぢぢぢ  
 ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
 本てし



月つきハきえれどころんくの世よが  
恋こひ路ぢハ暗くらくわへ

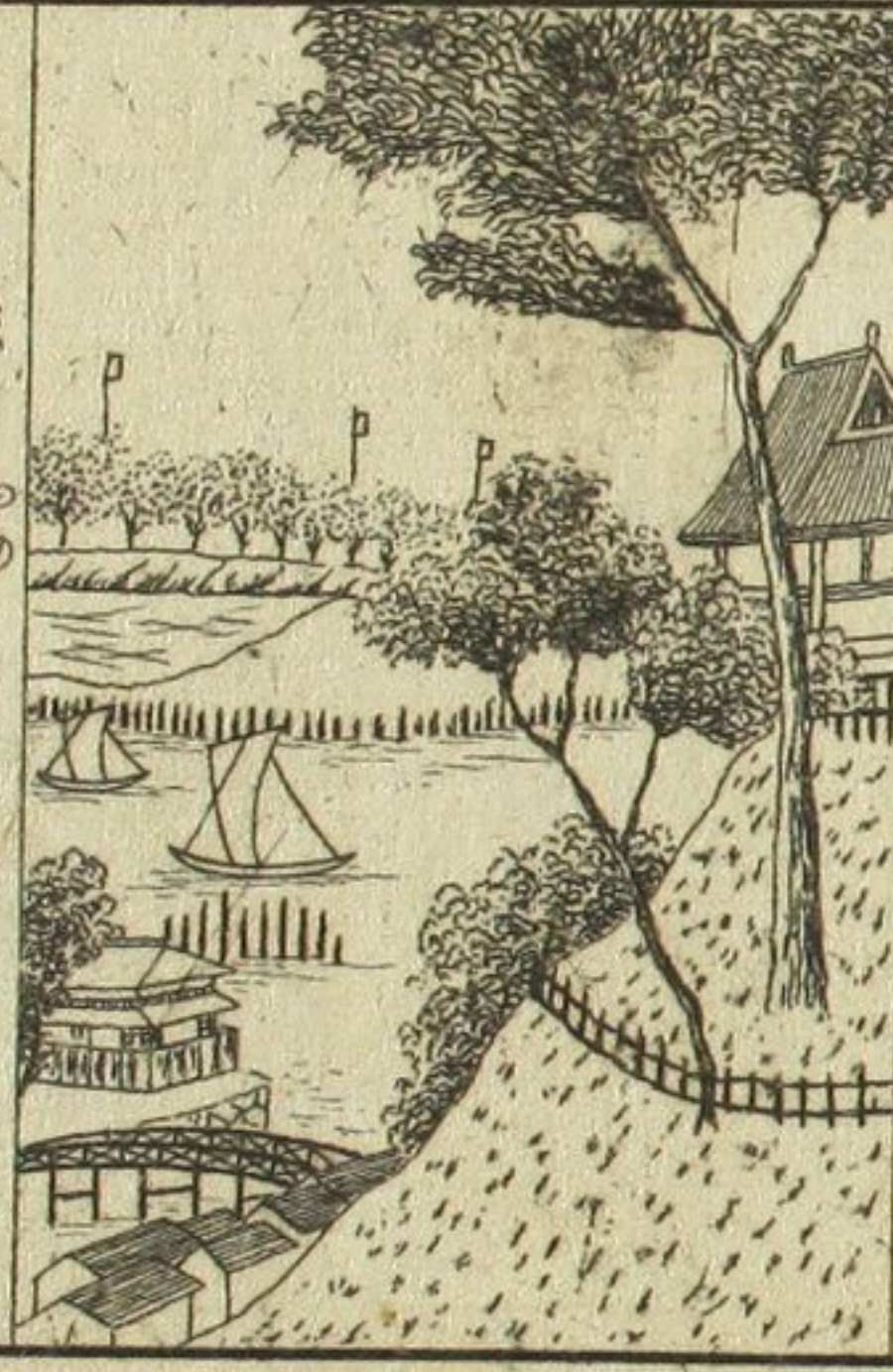
まなむひのむめおちとらふと  
まひの言ことばまどたけて今いまハあふ  
あてちりぬるまひまがよそとあ  
誰だれぞ同おなふとく何なにとせう

のわりくうのかつらるよまて  
もあひるだつみそめういさる  
士ど旅りのくせう言ことばまて珍めづしきたり  
よ小こむろがさうへるくまぐら  
くのあひの山やまぬぐある



うちあの日ひのあつことをまされ  
て一いつ帯おびの山やまのまふよ月つきとやど  
里さとて涼すず風かぜのそふてさへよづうい  
つよあけてたよくとあはる

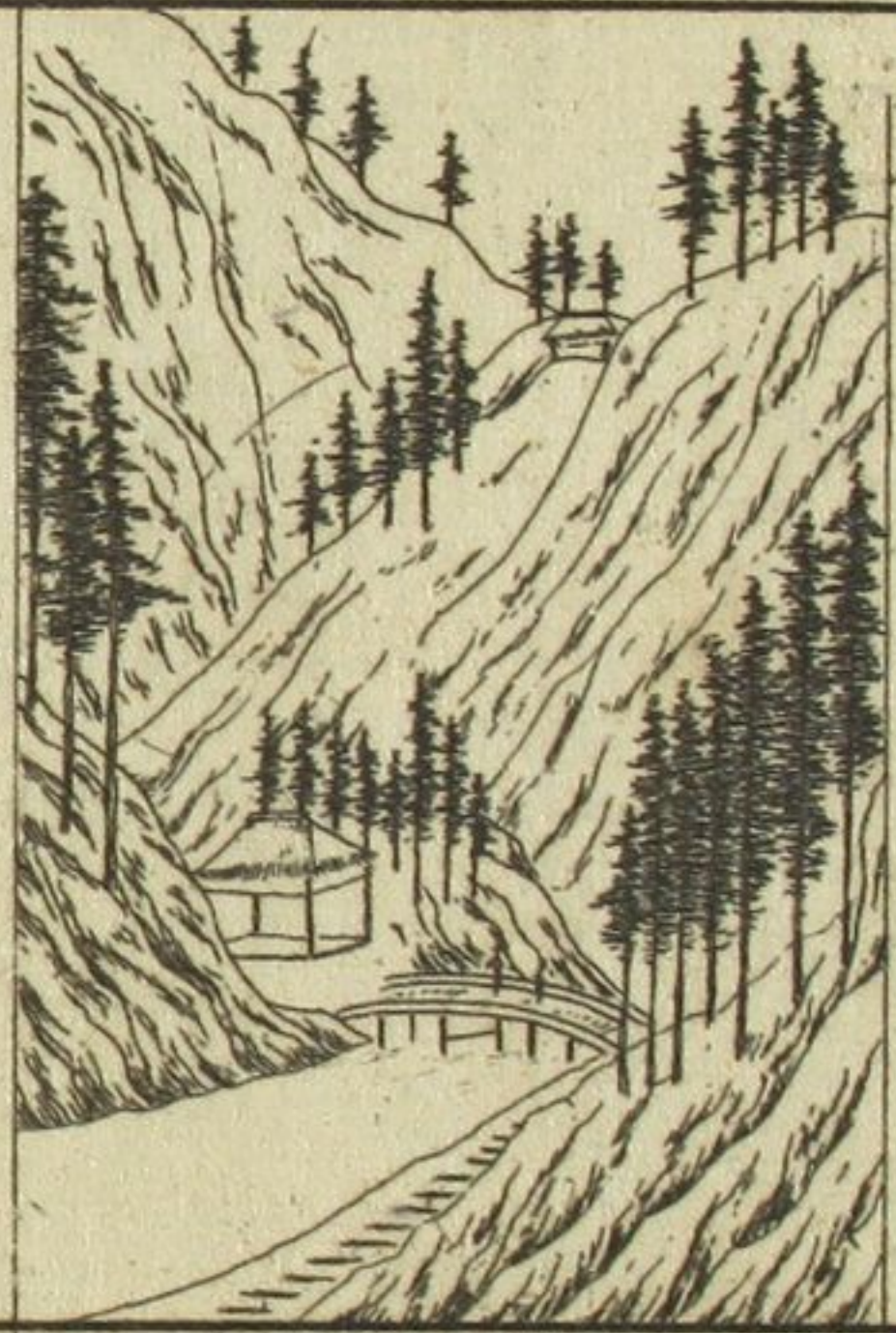
夕ゆふぐれはあがめえあつぬまみ回  
川か月つきよふせいハ吉きち信しん山やまあつけ  
ふひがえゆるぞへアレるうるま  
の名なのまやこふめいようあはる



あつとええあはるくさあそく  
まじつてあつつの縁ゆかりの内うちあふ  
てえそもふさいでもあふころの  
かてし

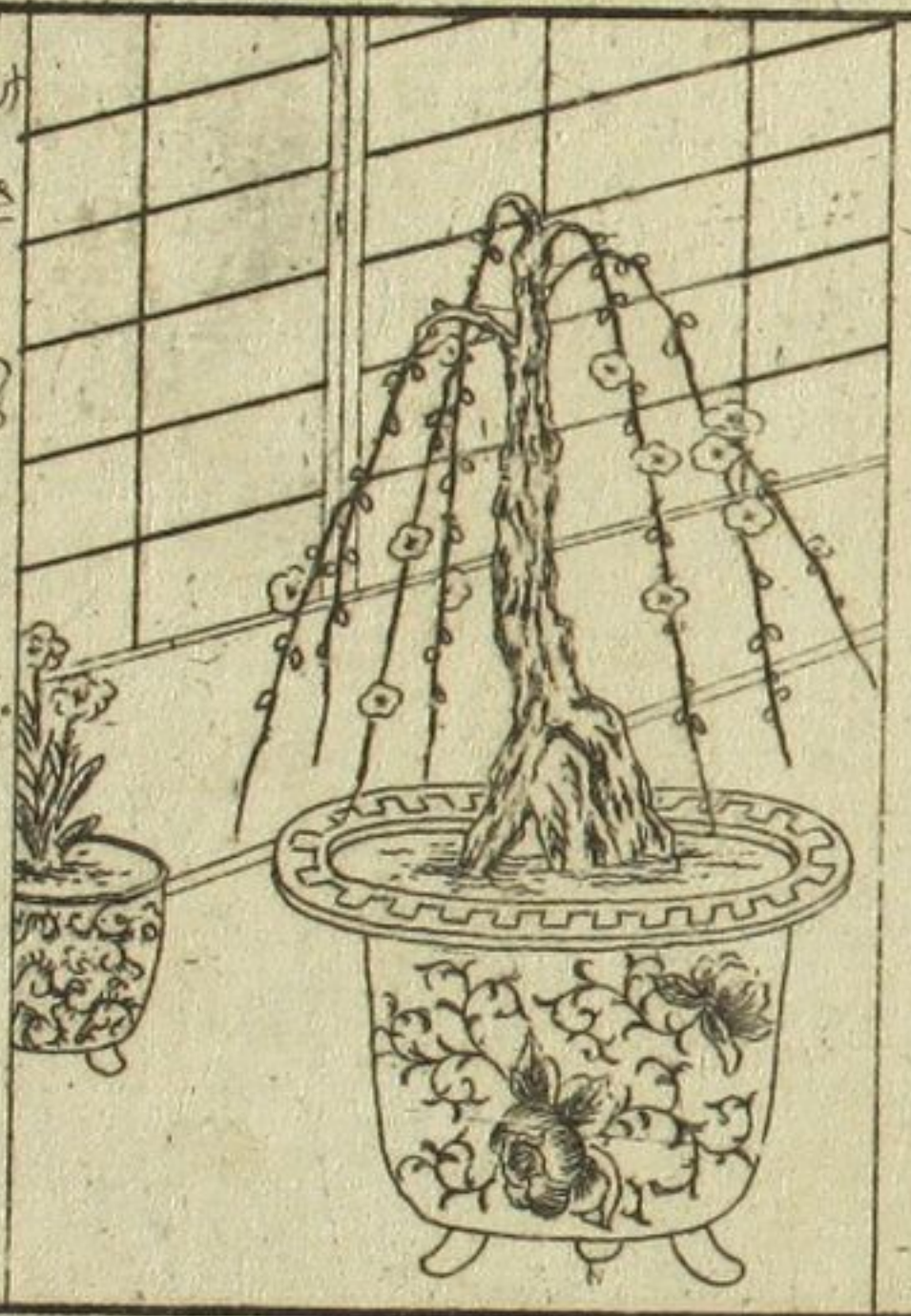


やるくもあやふで何をせぬ  
浮世も海山のかくのそのかく  
のまのとのまゝ住居して人目を  
へでりのかりひとや



きんとたかく能くふまへてま  
くりとつて富士や裾の松も  
しづめあまの徳かろの大  
ねあやませし神功皇后武内  
の臣軍人形より何ちまねせ  
ぶとるやのめめ  
ひと夜何くまばまきもかる花

のさくり梅やいれもつ杯下  
らぐひまのちあけき工の約米  
あつよう世しやまきい  
か杯もくごととや知りまぐ  
に解上もふつひのりあくだま  
まてさくむろの梅



今朝の別まは神ぬまてうさ  
るもる花もあつひのたれ  
とちろーてもまきもる花あけ  
かまありふれむ衣も坂



かいやまあしむもいめよりとく  
 あんづんでこふあつて今でハやが  
 る女房氣もさうたつとめて客  
 さんのきなんささるがかういなる  
 こと味せしむがふいさうを助も  
 やまのきんさるさるさる



ぐちも物もさう女やめのことさる  
 のるらるせまき神子よきづよん  
 云まりやいれいめ  
 云かふるふみもあどあはれ神さふ  
 川でたいて森よりの沖こて岩よ

せうとそちる波の音りいそせし  
 とそれら音うとけて波海のニツ  
 文字妻と恋と慕あててきエ  
 下まが十とよ向ふらほしと日先  
 りりよ相う忘られぬうそふも不  
 きこと志らやてそくまそま



妻凡は梅がかりまの君とまの  
 こちのたけを嬉しきふもつね  
 の愛よ身とそへてアレ少くしい  
 あけのうら孫  
 柳くで世をかりちゆうけて着  
 女てし



此が余のくまり梅まきかへ  
 櫻まきびくその向くの風志の  
 うそもまとも義理もほし始めの  
 せいふ思へども日増ふねてつひと  
 ちふなり昼森の床のうねかひひ  
 ぶらひひやりのむやうたんう  
 あと腹の五月やへ



幾夜さうぬふあへ跡の傳回  
 まげ浪のまらふ森とこれそ  
 むいと明石のうう千をせめて  
 夏跡ふりまへり

さいるうれ世と意あへおやあふ  
 くらもんが梅が香そゆ  
 春風よ二まい辰風とちなごそ  
 かろ月夜の層ありあびくそ  
 あひわきの口舌のこのる  
 雨りけのうらつと終夜あふま  
 てんそあいういさ



うむ玉のやとこたまふのわり  
 つめ二うせうきて志のびあふ夜  
 ひむあふくろぬりの枕あふ  
 ぶあふういさ



此のまぢかりし舟のうちうわハ  
 見へねど羽織の紋いたしうわ不  
 えのニッガハハでちがらんとよ  
 せうとねとさんとはよむがまよふ  
 子子も志まつとい船のうち



紀伊の風かとは川のおくふ  
 立せぬハ船山船玉十二社大  
 明神さて舟まよいつてハ玉姫  
 いるりガ三圍ハ帆のよめ入か  
 りつとかつぐハ合カいるりなと  
 のめハ回町のそでまりもさじつめ

今宵のまち女希 仲人ハまき  
 まつらるる思船きまつま  
 子までほしる信田つま  
 名のまう子のまきハ身よま  
 いとさびハねねのちま  
 よつハねひぢまかハせ  
 るわとさぎせ



玉川のおふさせ一香のね  
 るにせのそのうちふとけ  
 のりまごもひおさふ志  
 まよまご来るまよまつそへ



秋の夜は涼しいのよとまん丸は  
月を人のちうとあけてまんどの  
こぬ人のまをせるものへひまをうり  
かぞるゆびも痔つ起つまゝや  
てゝおれてさるわさる



るあかあかどつとこの山合よ  
つゆのあまのけのト夜妻のうも  
不のめくちうの里人目のまを  
志のびつ本の名くれまうら  
よあふとくふまの月もさ  
むしとれたのむしびめくくは縁の

糸とけぬもこの海みどりま  
よあぬ夜へ草のさたうらうら  
ねーのち毛も現のあまもなる  
不と涼いあまの客とるま  
ろゝまのの男かめく



むつとくくくまを門のま柳よ  
くのり胸とるあのみまこれ  
ては月のくげさるんがわろふ  
しそわや

薄墨よかく玉堂もあひして  
唇るままる骨やわ月影

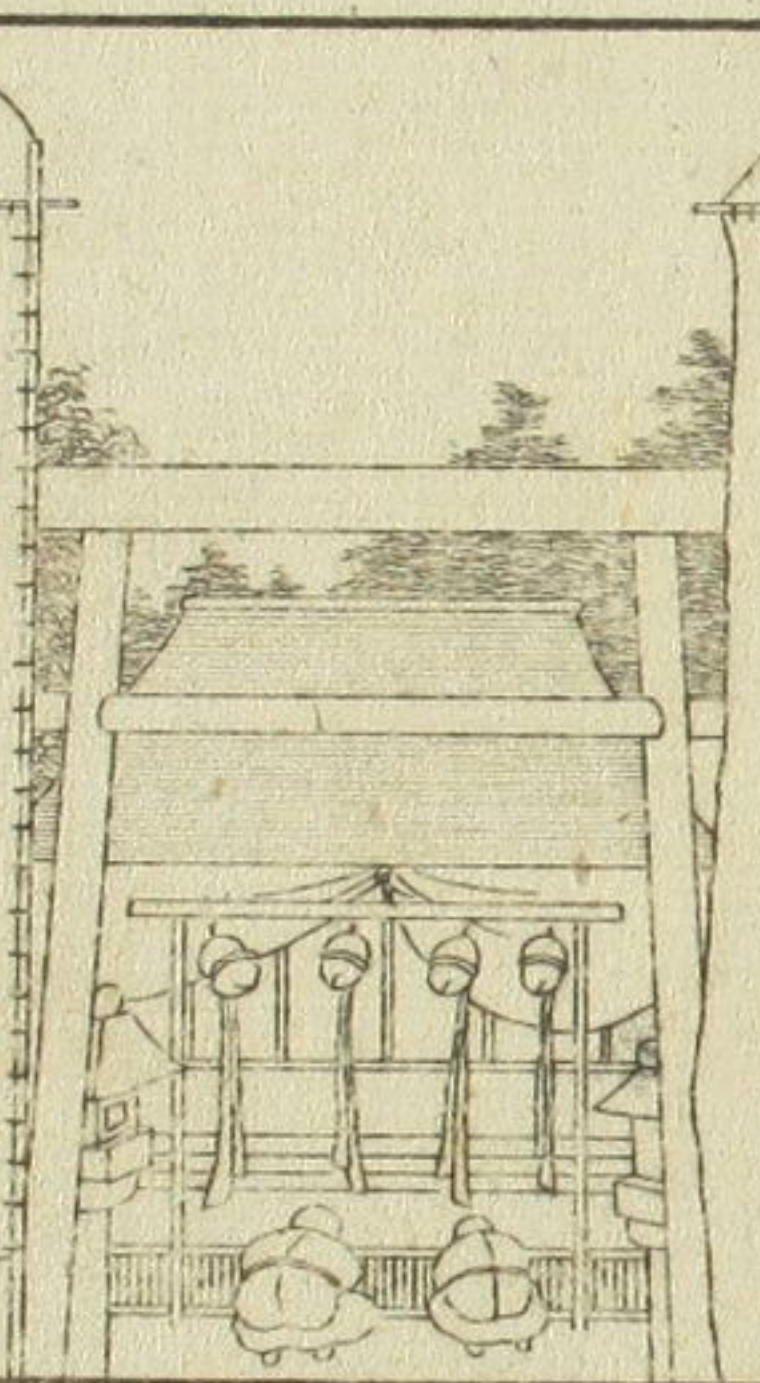


あつてぬしんよごまてぐ  
ちまきんあひまへてま  
あぬ早く若果とほし



船がわのあめの命のそまきん  
あまのあまやりのあまのあま  
あまのあまのあまのあまのあま  
あまのあまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあまのあま  
あまのあまのあまのあまのあま  
あまのあまのあまのあまのあま  
あまのあまのあまのあまのあま



あまのあまのあまのあまのあま  
あまのあまのあまのあまのあま  
あまのあまのあまのあまのあま  
あまのあまのあまのあまのあま



むいの子ぐさふ抱ふあやうや  
とき尾花へりのあひうのむと  
ふそげ髪こちう向て笑えせ



約とめて神うち抱ふけもる  
さのまろりの雪あふてま  
いふもむつの花やあまえられぬ  
物なりんせひくるとい人あらし  
羽かりかたまも何りふれとみと  
りゆよふあど様つころ

うら川かまどせあふ長ち  
神とくうて歌のをくもやみ

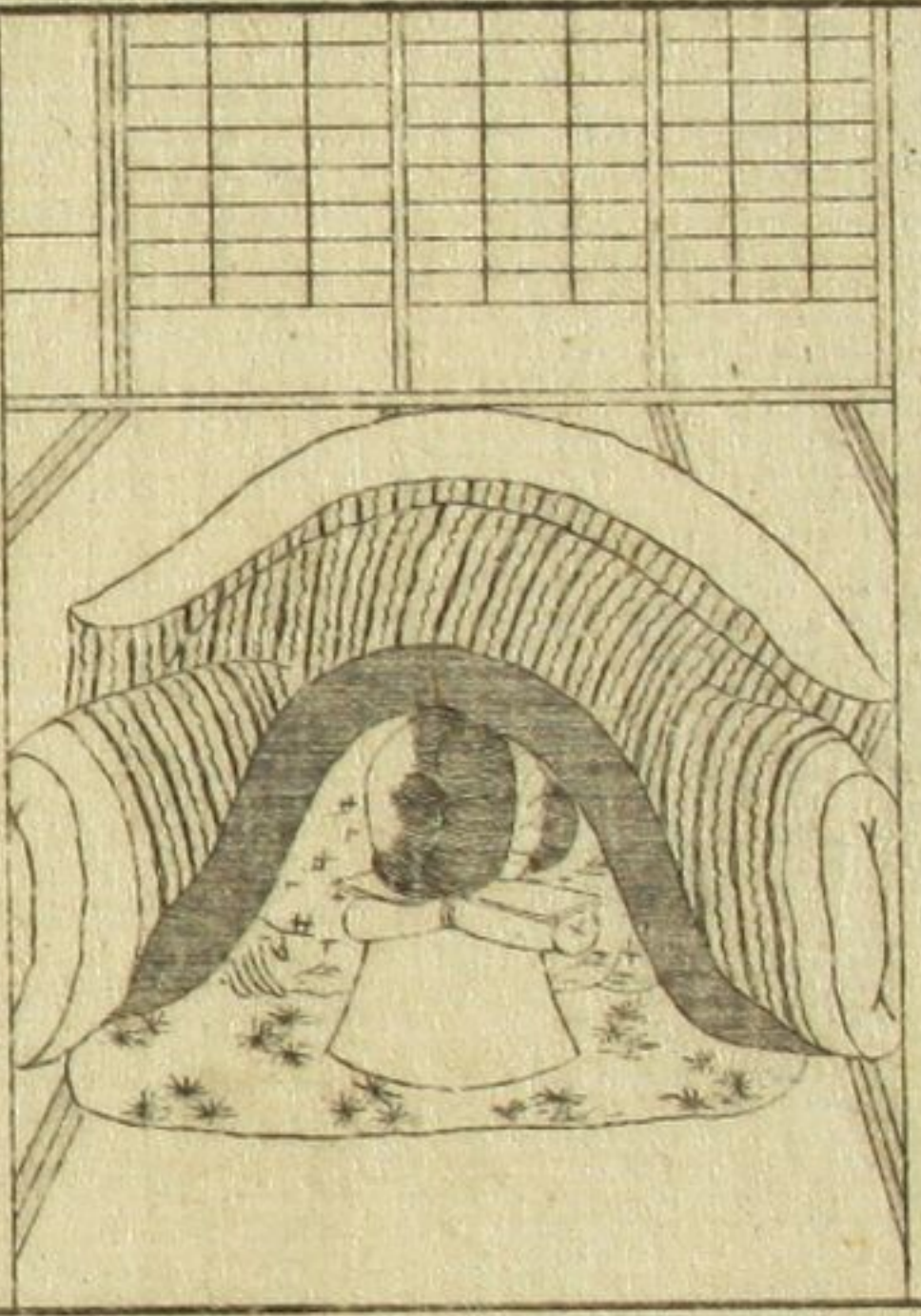
月のいもさ帯あめうむり  
紅梅のこままでけさ白くへの  
かりひのたけや陰り様りそつ  
と才もよむあらまうりのうや  
のをこへままのまつ



恋といふ字は一やふうひど  
とせんふひうままで今へうひの  
むねの内さう母若うかもまら  
風さそふ春とも思ふどりや又  
あもせあふあふるむのうちの  
深の関とびまわどふかりふのと



知ぬありて寝て居てもども  
寐くまぬ意のくせ



雪の夜のつゆさふアレ小ぢりだの  
二人づまごひふあはれ合ふとぞ  
あつまぐりしあはれひ髪髪も志ま  
つゝくまやうど

かま腫也りしきまぐり提ころも  
さえる夜半の月面ふうつの人  
顔おむつと立てはッレんぢも支ぬ連  
きぬぐのまづれの空も雨さそわ  
蝉とあるともくりふうけてるの

てまろりよくとろれてのきよウア  
むりしかりへバミづ知くぢ

ま〜夜まぐり〜意のまぐり〜とけ  
く袖せうつろくと寐ぬついな訳  
もないとあひ後軒のせ海



乃末ハ誰か肌あまる紅のそま  
あやししいでいないういなむう〜  
意〜丸筒井づかりかぐみも  
元ゆひまうけ〜や社のぬまごじ  
つぢ〜あころが〜後玉

み末〜ちぬる録本のあひま沈



む恋の淵底を川の流れに  
いつかあせと松涛のまつり  
あやもえよはるるあまも  
夫婦づき

あまもえよはるるあまも  
あまもえよはるるあまも  
あまもえよはるるあまも  
あまもえよはるるあまも



もつ青のうすくまづけ  
も白梅のかどはくはく  
志まつこい恋の深せうら  
恋つちよつと一筆けさう

かろむつと来るみであつて  
宵へ恋つりる雪うまくれ  
風あるかあいの志のび  
まろよまむくまき



かち跡る月の夜ある物  
こまは後る時をくま  
らみるは風よのぬる  
のうらもやのさのうら

け君のこへぬるがまの  
恋まらるる柳うげま  
十七



こけ三日月のくの約さくま  
何じきりりととけー何ふひ  
むせんできま死あのみ

仇る笑か不つひをまこんで  
妻こふき下のあろあもまひろ  
のあみとらふふとつてあむし  
のたよりうそあろあふ息とり  
てとたがひの机よいじだしめ  
ありそくとありやまらけし  
びどあまうさ



船がわふつてとまて物あひ

人の心と波のあをわぬちうん  
多羽の舟わいのまれあろ  
らまもやまき回うへ

めろ日の春まちういとて老木の  
梅が若おんていあやしやく  
くわりゆじとゆまひうゆえ  
るたうけるあろのあてい物あ  
かじなりサリハ短る今かび  
あめそけらひるあけきあ  
まらんしあ



あふ身の月とへ不破の板びさし



りまそく名のたましくまゆあこ  
 そのときやあふらしくついで  
 らましその車くまがはしや  
 らまそくあまもつひまそく  
 いまふ二人ぬがちま引めて  
 梅垣が出て少々の夕ま川  
 風さるとく牡丹の仕方の  
 色あつたまきぬいつともあま  
 そのまよふも姿位



うんふもあまそくまあまの振  
 まてもあまもあまをまあま

としそくあまそくあまのまあま  
 あまそくあまのまあま

あまきぬ人まあまのまき鏡  
 くりがらあまの狗のうちあま  
 もあまあまあまあまあま  
 とてあまあまあまあまあま



うんあまあまあまのまあま  
 あまあまあまあまあまあま  
 とあまあまあまあまあま  
 あまあまあまあまあまあま  
 やあまあまあまあまあまあま



ひよととあまもいもせやう  
しつる故懐のしも

あししくはひやくとある狗  
まじこむ志の月今如来る  
うとまの身ハ知くせまぬ一  
声時香

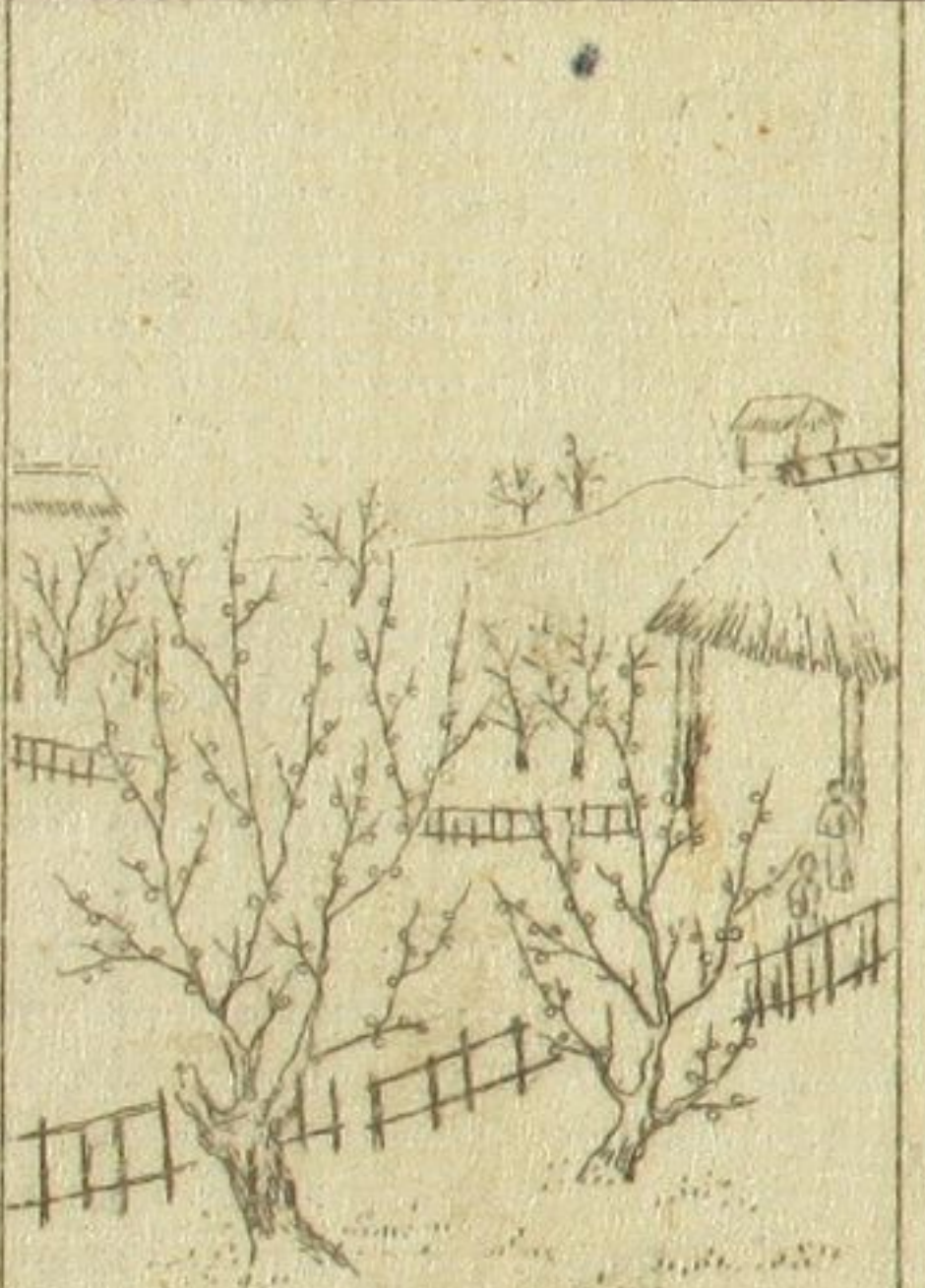
もあ卵ぐりよ梅やいんうあり  
とあとううくひま如枝まやど  
くるこそあぬハああじしい  
もるのとも



隅田のまがまよよあそめてどんを

このぐりあひまほるひといあま  
菴ざんのおんれんを侍乳山  
あまつたけ屋とすもうま  
き狗のうち

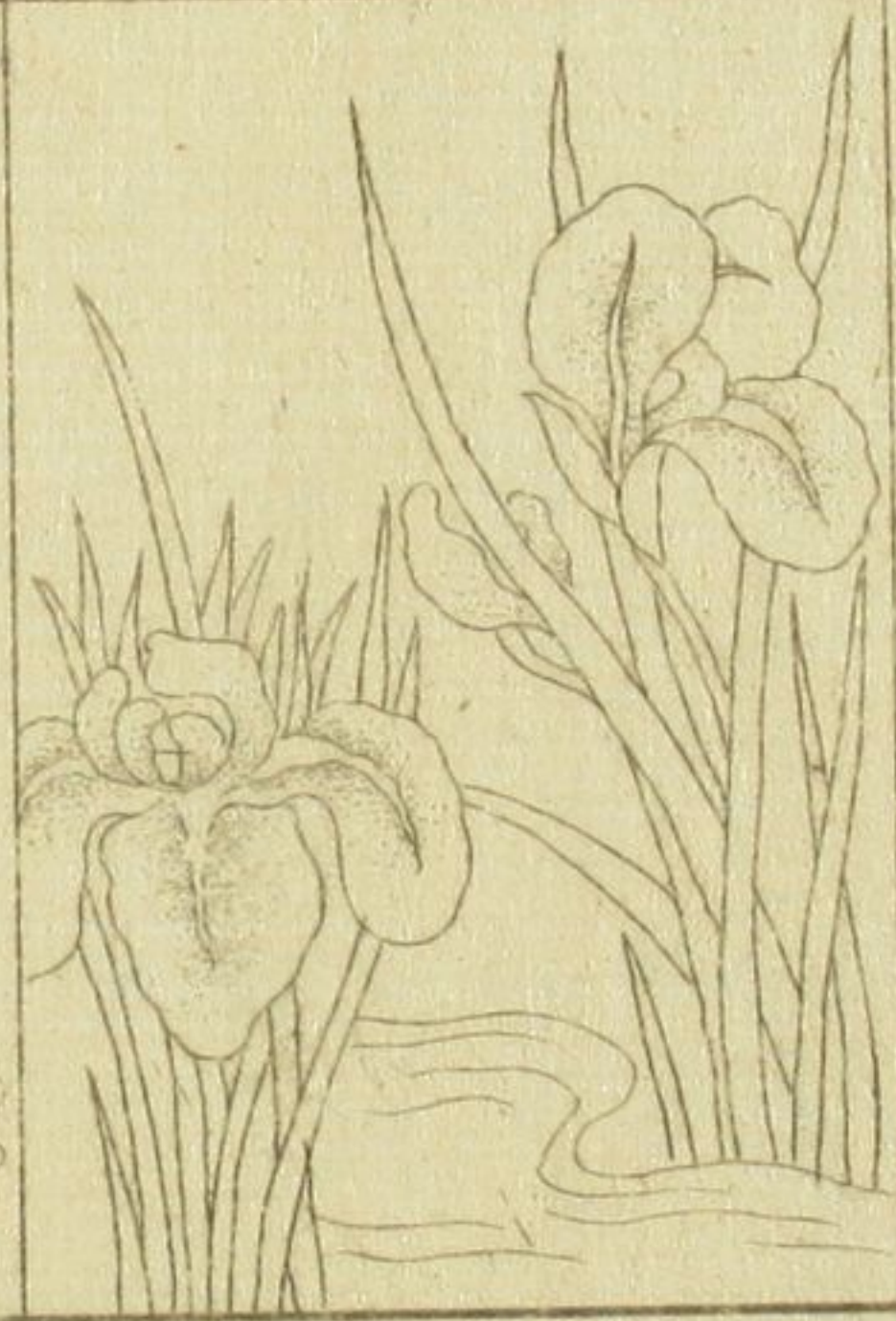
をくしてちういがきのあしひ  
とん侍女が原の猿渡川さ  
そあさくらの花のつゆぬまて  
あしのと夕ぐさのちうぬるがめ  
もあゆへよつまてこの粒  
あうれぬの麻もまゝあぬん  
せれやのまびまぬあ





あつとぞせ秋づくさごめぬたぐ  
うりくと月よりうらもその風情  
もいふ舟のあはれなく少へり  
おまめそのそとけいあめぬ  
がむりうへ

むらさねのきあつたかきあを  
とあまうらふ秋さへあいの  
いつのまぢてあひけとあまを  
あけあえ何れもあまのこへし  
くらやあまいうらな



あいのいまでまうぬわるとあま

てりあんまこもやの秋の  
あまやどるあまのあま  
せ何れのあま

あまのあまのあまといへるあま  
よつひあまのあまのあま  
ひのあまのあまのあま  
下まのあまのあまのあま  
あまのあまのあまのあま



あまのあまのあまのあま  
あまのあまのあまのあま  
あまのあまのあまのあま  
あまのあまのあまのあま  
あまのあまのあまのあま



うまぐさあびあひあぢと  
まろよふのこま

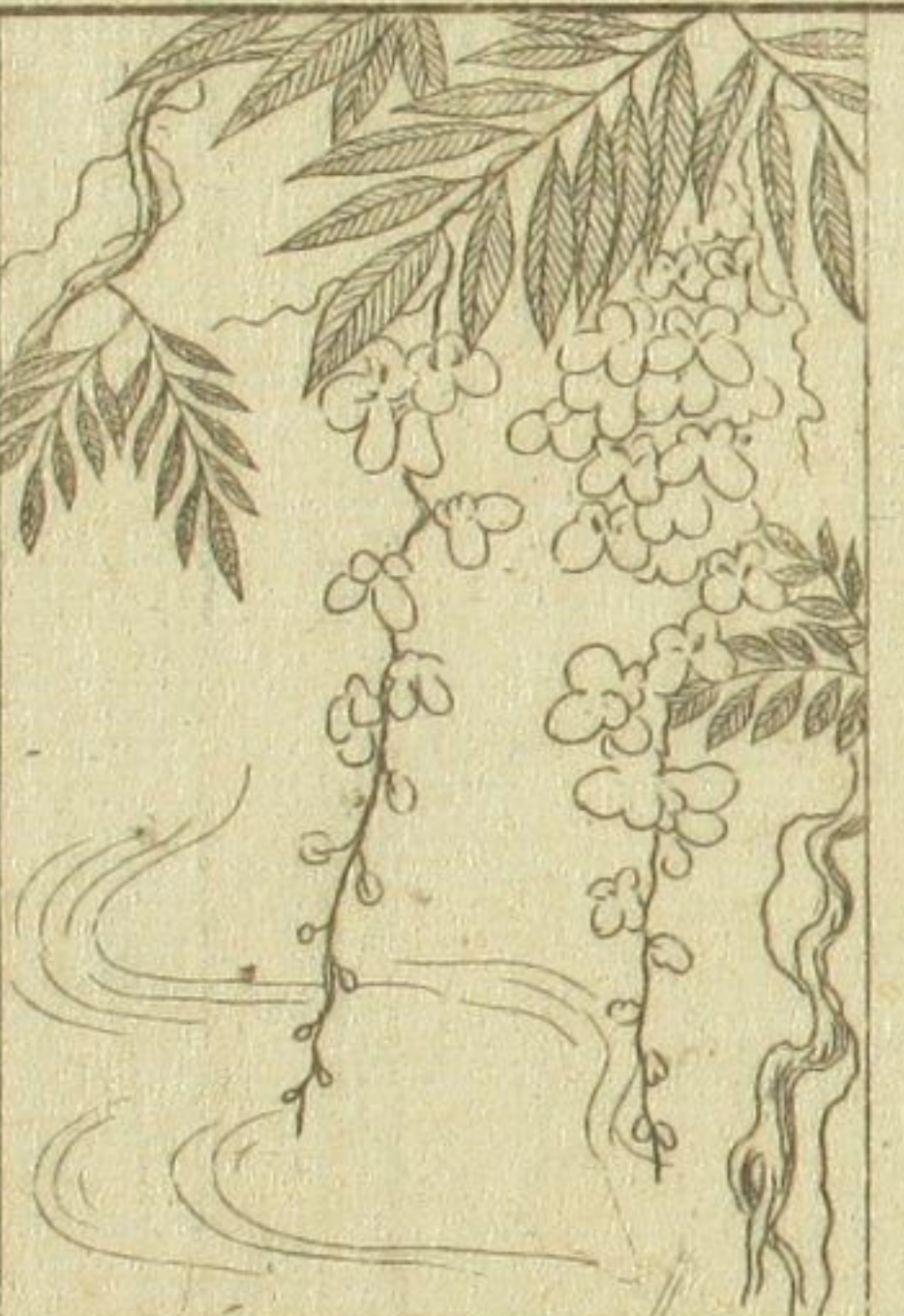
連理の松のつらぬとたま  
のこまを若みどりあせし  
あろ方代もさうへて雪の軽日  
うげとけこまごこののりた  
春ふまばき香とふくむゆ月  
のかりひこまを花まをこわう  
わけきあうの下まはうらまを  
くまあ梅のうくひま



花まあびくま柳のむまんて

とつこ縁の糸いとあれて見  
久りのあせぶらな指とぶさう  
どあまい実よらんま

ぬまて色より雨のぬそのゆこ  
あも君ゆへとまうこはくろあ  
あろごゆりの色もさうくよ  
うあしゆあまのさ



情森のまのうねははたへて  
まろよふのこま  
とくふとのれぬびん指いつま  
柳の三日月あめりかちるむ紙



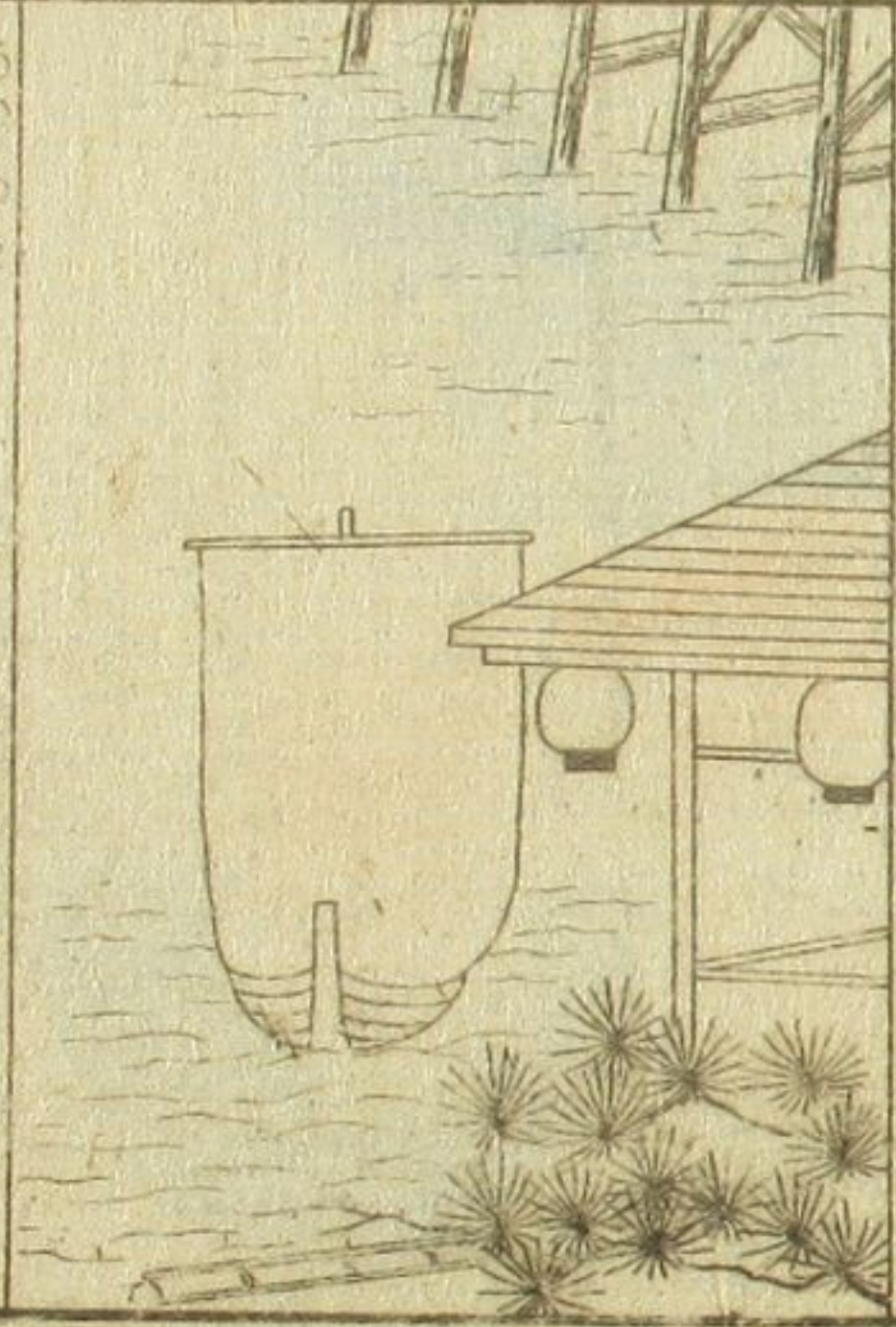
草の蔭あつむ夜もまがしま  
 今初とつは蔭もやうそむも  
 むとむぞ又かかひひあらぬ  
 人あし知しやまむころむらり  
 があつこのめと

紅梅のこがまて今朝は白くへの  
 かりひの丈やあつりそつと  
 もよもあしきつりのうぢのそ  
 へは春とま



かがろようつるゆりの朝のこ  
 むさねやあぢ波のそましま

いそあがみもあつるま  
 る比の鯉ヤレちかがるせほ  
 ろのまごつりのとろがあま  
 げのやあやうむのさつらとや  
 てあまへんよまぬわんかまへ  
 かんかよえんせ私い内  
 ろうしとあつらが中よ小児  
 うんで川といふまは蔭てえ



蔭あつこのめと  
 蔭あつこのめと  
 蔭あつこのめと  
 蔭あつこのめと



理といふふへは是れもななく愛り  
うつら明がき

あやの夜の宵へさまたでまはた  
きて居らふあけてある程あ  
くともや時刻とまのつた  
まんとつたたる鐘のきよ  
りへるぬがまのりほこそ  
あんきみるるぬ屋さんたま  
あふのお知りもせを



花如あふひの一夜妻を  
花如あふひの一夜妻を

へーさく母をさあてうらな  
かほもさろがうりうらぬま  
てまきも一羽種方さぬくの  
かりひもあけり春の箱  
さる風よあたまさま一少あ  
さつひもなれぬめうとあ  
あのをまあはるころねと風が  
船片々種如使の綾とあ



かつ川かきとせな小長あ  
種とくうて鳥のぞくもあ  
月のいも帯あのをあ



龍田川へよふ止めてまうら  
 まう娘のさういつてはうや  
 あんき花のそく藤入り  
 君とまのちの神くけてまの甲  
 也もあくそりかみくちつ魚男  
 のそくしし種まのこま



実かうはの下やとうひ奏  
 てやんわさうへはしまの君が  
 代のめくさうけてみどりま  
 松あどのへのむつましく和  
 合長久いとせもめで友祝

ひ納める

二上り端うたゝ

春あよまつりぬるさの羽  
 風よ自れ梅が香や花よこむ  
 まあやしむやわをさへもむと  
 まぢふねくさめぬえいひと  
 つましくやうひもぬへ梅やう  
 てやまゝあまふあるあまふ  
 サア香の石梅あまふのなサツ  
 めんどもよまのあ



香よまよ梅が新端の自ひとり



花よ阿せせとまつとせのゆそられ  
 しきけさうみひくもつきの  
 志母らしくまごどけやぬうせ  
 氷雪よあひの海草のり夜の  
 毎ふ急のやき君うあさけのかり  
 香の麻よ抱うじき夜もまう  
 梅へのふさうんふ家流の  
 うええい山吹の町人花へ抱の花  
 柳るがうせまうりの



おぬのゆりのみ本のゆびとや  
 本もんよんこまが志こあんよか

まへに飛ぶ人

竹よりあやあちく竹れとい天  
 八中八笛はあはそりの舟の  
 ちくかりひまのうせぬほこそ  
 あしきさういやく

秋の七草むの産物る蚤が  
 身とこがれ君とまつむるく  
 香おあそる志といあまが大切う



源氏方ぬの何とへいぬわいと  
 かまんのにたうて花まうのそあえ  
 ちそあわどがよい



秋の聖よ出て七草見ればサヤレ  
秋の聖よ出て七草見ればサヤレ  
秋の聖よ出て七草見ればサヤレ  
秋の聖よ出て七草見ればサヤレ

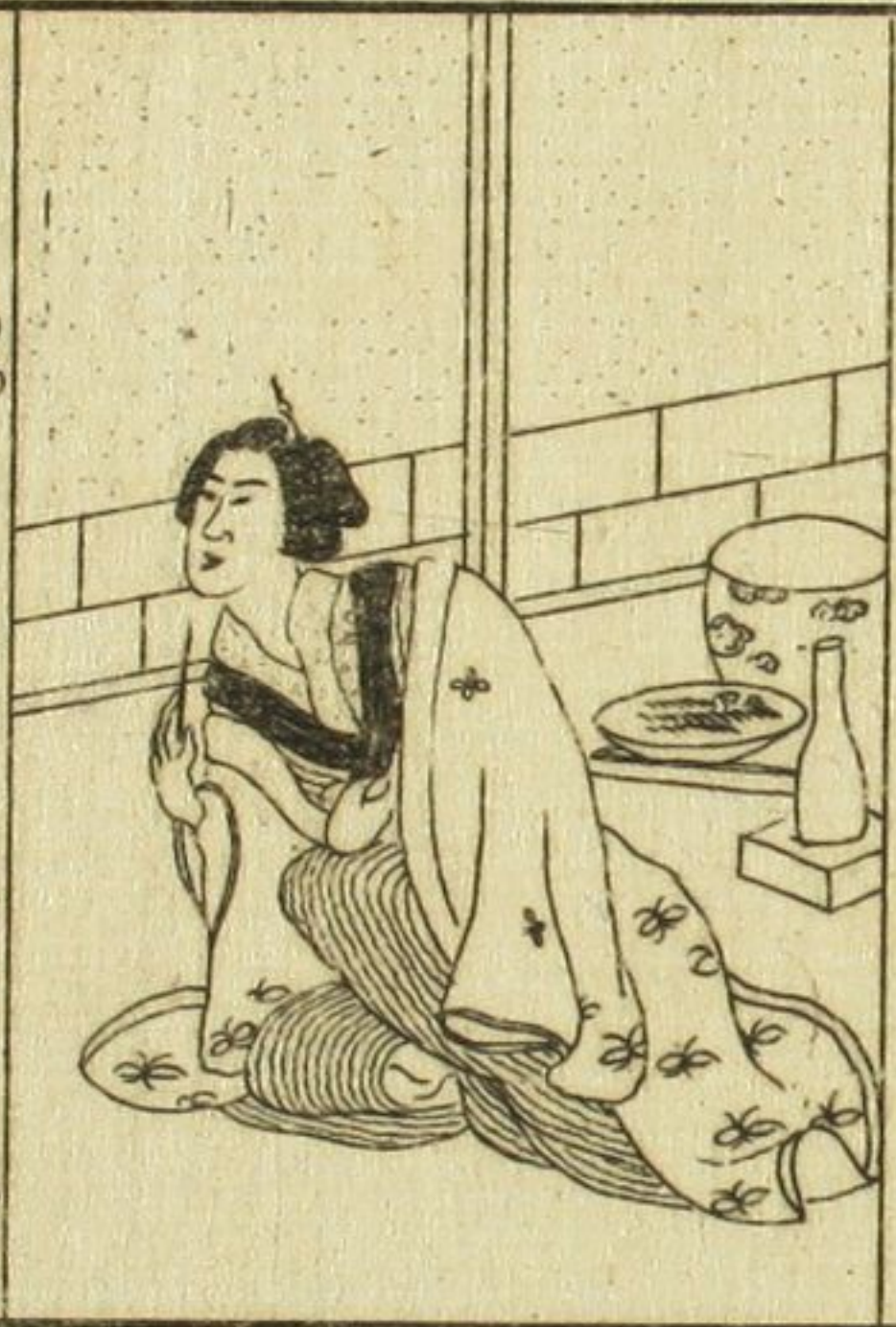


何人をまよとと通てんか  
何人をまよとと通てんか  
何人をまよとと通てんか  
何人をまよとと通てんか

秋の口ぐじしの物ぐさもあひ  
秋の口ぐじしの物ぐさもあひ  
秋の口ぐじしの物ぐさもあひ  
秋の口ぐじしの物ぐさもあひ

酒やめてあつむほまふり  
酒やめてあつむほまふり  
酒やめてあつむほまふり  
酒やめてあつむほまふり

いよあひえん



夜のぬりや来るうとあえん紙  
夜のぬりや来るうとあえん紙  
夜のぬりや来るうとあえん紙  
夜のぬりや来るうとあえん紙

三つり

あしがあひえん玉一のうの原  
あしがあひえん玉一のうの原  
あしがあひえん玉一のうの原  
あしがあひえん玉一のうの原

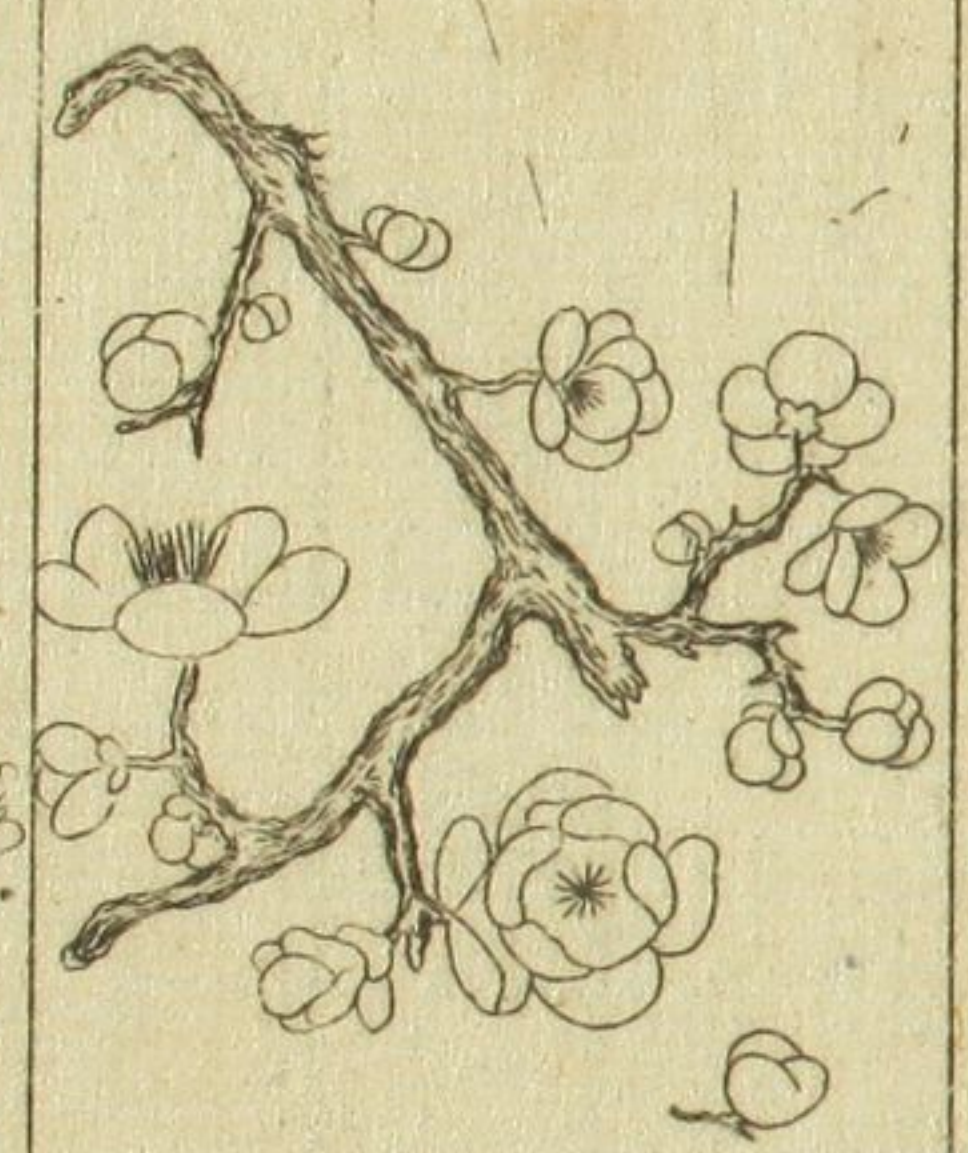


いのちのやうなまはるきよきま  
 とうきょうのまのまのまのまの  
 志のぶ隊中のつひえおしきく  
 志みる小神のかくくくくく  
 松葉の歳あ代ももあまぬ中の  
 たのしく大平あでせをちるう  
 よあまの



蓮のあまたまりしあはゆゆのあ  
 とうあまごあまごあまごあまご  
 ひよことあまごあまごあまご  
 月あまごあまごあまごあまご

中のあまごあまごあまごあまご  
 ああああああああああああ  
 春の梅あまごあまごあまごあまご  
 色あ知あまごあまごあまごあまご  
 ごとあ枝あまごあまごあまごあまご  
 ああああああああああああ  
 ああああああああああああ



ああああああああああああ  
 ああああああああああああ  
 ああああああああああああ  
 ああああああああああああ  
 ああああああああああああ



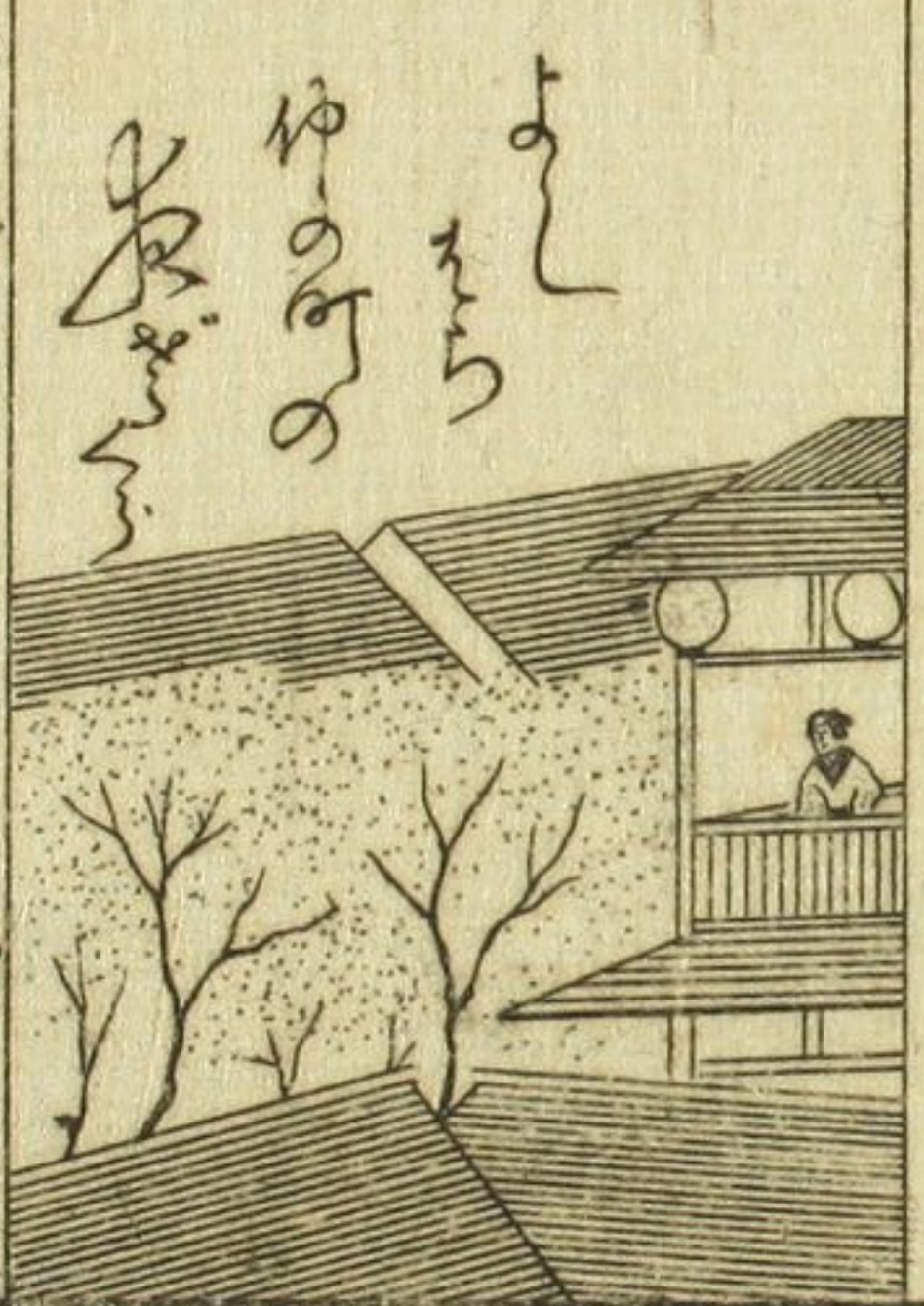
のりよふをまみれゆく人もぐち  
ゆゑをさぐる

かまひくとあくむしよともあ  
ぬわらふがよとさそるんのん  
ぐまをさる人よあんとほし  
て？くらや



夜ごとくやうらましがしそま  
いと花のわがけよたまわうと  
まつみんとわげえんさるま  
き柳の風よのまれてそま  
くとろサさるやいささる

いぬのうた



よし  
ゆのうた  
いぬのうた  
なうたこの浦ふひは帆とよ  
月あるともよわのあみの  
あぢのゆがやあつる尾の  
ゆまてまわのほつたよ  
なりまわほのほまよなり  
おとがさへさそあきりまをこ  
がりあまふされてつひよまじ  
のこあがり

ののかわあへうぐひまのかり  
ちうくうわりやうや春のま

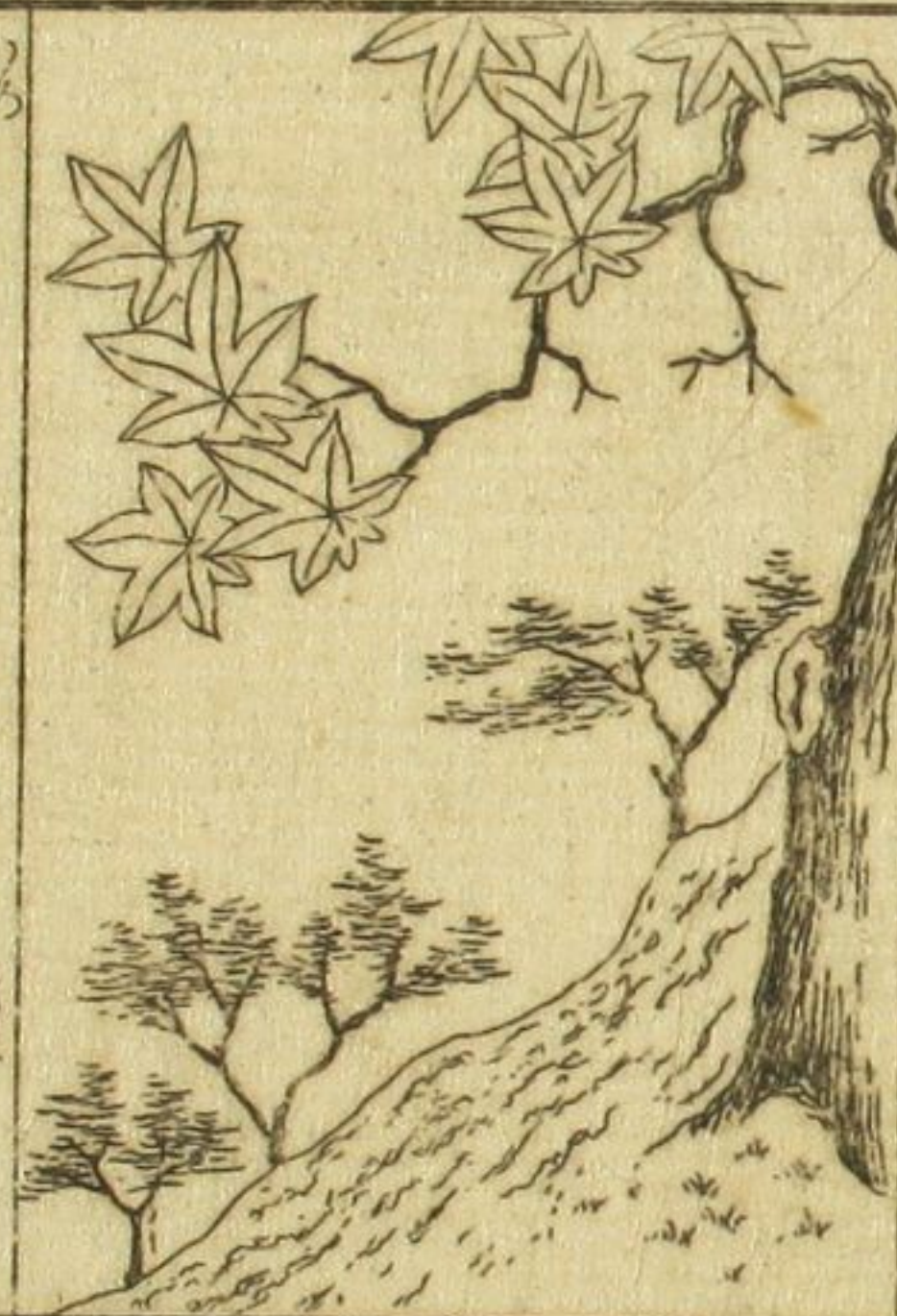


その者下産自まきよ  
 八重いと山もあつらふは  
 けせう娘さうりつあつらふは  
 けしよちをぬえんはあつら  
 る中あつらむむらうし  
 ていあつら



梅垣が出て来た溪の夕暮川  
 風とと牡丹のあつらけの  
 男のまきいりともあつらの  
 らうらうらうらうら  
 人とちたつあつらく笑りく

ままでとげよみぢあつらよ  
 うせつちあつら濃が旦ちるの  
 小なまきいりあつら



色があつらせうちでわれとあつら  
 いひあつらくんとこまでもま  
 りんあつらあつらぬぞ

全まの夜  
 戸くく風も  
 けつと何ぞ  
 全まの夜





何つききせうけ修向のうしろあせう  
 んがさうまゝぬ  
 か命 後まよきそまゝゝるゝ修まゝ  
 のれむの 修のうしろ

思ふが方よあそ  
 てゝあのが解せ  
 又せしむれ  
 のらう



何もちきせうけ修向のうしろあせう  
 あんごうまふつぬ  
 修の花のよあそあそ  
 何しあゝよあそあそ

何しあゝよあそあそ  
 何しあゝよあそあそ  
 何しあゝよあそあそ  
 何しあゝよあそあそ



何しあゝよあそあそ  
 何しあゝよあそあそ  
 何しあゝよあそあそ  
 何しあゝよあそあそ

何しあゝよあそあそ  
 何しあゝよあそあそ  
 何しあゝよあそあそ  
 何しあゝよあそあそ



何しあゝよあそあそ  
 何しあゝよあそあそ  
 何しあゝよあそあそ  
 何しあゝよあそあそ

何しあゝよあそあそ  
 何しあゝよあそあそ  
 何しあゝよあそあそ  
 何しあゝよあそあそ





梅のふあひはさうしよとてあはれ  
柳まさうせたい

あへまこりとりうまうちよん  
とまきしよていせむ

あまゝ園うゑを  
しこりまも  
りちぎまのさかん樂  
人がよ



春残のへるまつけても我れどかよ  
早く物んきまのくまよ

春野まどまきうせを かひてあは  
あうまわとまき

梅ま甲斐あひあは  
今いま春の雨あめよ  
内うち小こ庭にわあは  
神かみぬいせ



うんきうていもまきまぐけくち  
あひしなまのり

一口ちあうたなまえんとねものあ  
えあけりねさがうさく

ままししががまままま  
ああちちああままがが  
たまけけててままままをを  
女めままい



あまていのねああいいりりままかかい  
ののててままかかいい  
わわりりくくままももぐぐふふあありりままいい  
ままああいいままいい

ああがが女に房ぶと  
ああちちああままののうう  
ままままううてて出で鹿か  
ああままいいの





人の心もあつねぬ人がよしの  
あのみま

まじりしりまがまじりしりあ  
かまへ女房もち

美勢がうまぬの  
せむらうの



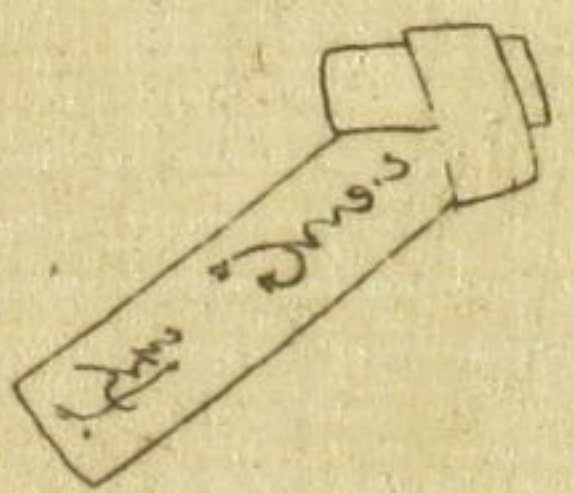
あんのふのと  
よこま

早くあつねぬのあつねぬ  
まじりしりあ

あつねぬあつねぬあつねぬ  
あつねぬあつねぬ

あつねぬあつねぬ

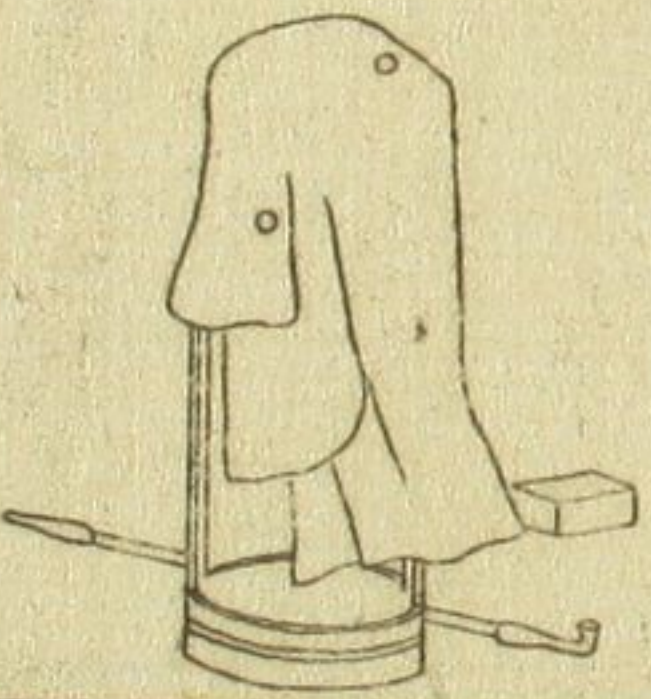
あつねぬあつねぬ  
あつねぬあつねぬ



あつねぬあつねぬあつねぬ  
あつねぬあつねぬ

あつねぬあつねぬあつねぬ  
あつねぬあつねぬ

あつねぬあつねぬ  
あつねぬあつねぬ



あつねぬあつねぬあつねぬ  
あつねぬあつねぬ

あつねぬあつねぬあつねぬ  
あつねぬあつねぬ

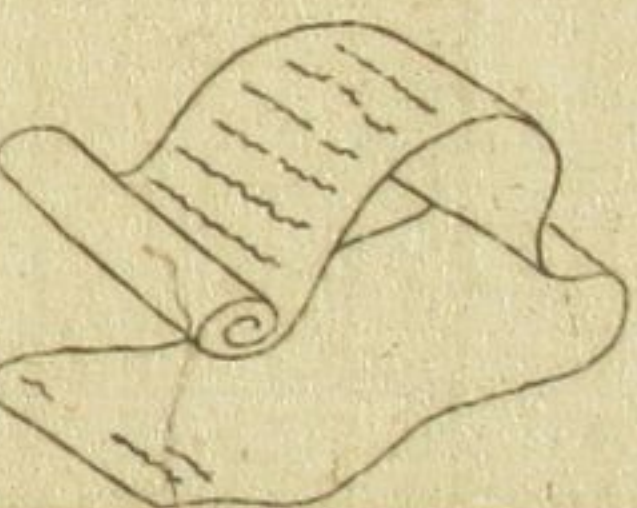
あつねぬあつねぬ  
あつねぬあつねぬ



あつねぬあつねぬ  
あつねぬあつねぬ



月よむくも花よはれどしどく  
陰世のやまうらみ  
そらあひはれぬ朝場のむしよと夜  
つきてるはあはれ



あろし文句の  
かまへのみの  
没どとろり  
まごまわり

梅とさくらの色あはくへ中よ  
まへしこと柳  
そころ空めぬッラはあひつら  
むふのなまこ



仕打で味のの  
まへせん料理  
一まいまげんで  
あしはとる

我身でまがらぬまののひよん  
そつてはしとら  
あんが志あんのあといりどき理  
なまじあの人であ



指がきろを  
志と判かど  
なまの姉しう  
まごまのあ

あられるんいんもあひさしあが  
ふつでこのまま  
いろけつひよはあつたも人目  
まけまはちとるれ

姉ーあわの  
ひるねのあ  
そもねん  
あのをびま





くさすかみしあがらうあもま  
ままの川

かまもりのまごしあちまの  
とあまのたま

黄でもわても

コレラ病

張残やいよ

身代うま

コレラ病

やいませいせん月のやん

きこむ物のあや

あまのまごしあちまの

くさのまごしあ

大工あんで

かんあでそと

まごしあちま

まごしあ



よのくせうお夜中のまごしあ

くさのた

まごしあちまのまごしあ

まごしあちま

まごしあちま

まごしあちま

まごしあちま

よの女房



のりたあちまのまごしあ

まごしあちま

まごしあちまのまごしあ

まごしあちま

うそのまごしあ

まごしあちま

まごしあちま

このまごしあ





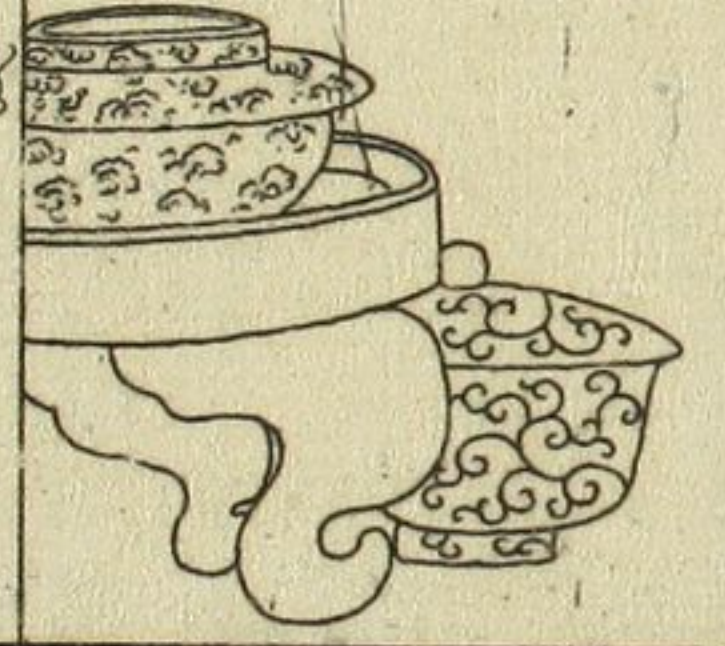
ふかきおろしをいれぬがゆ  
 たぬまひとりやゆかひ  
 枕ひきよせまいぬの床よぬ  
 まづこの後うつ



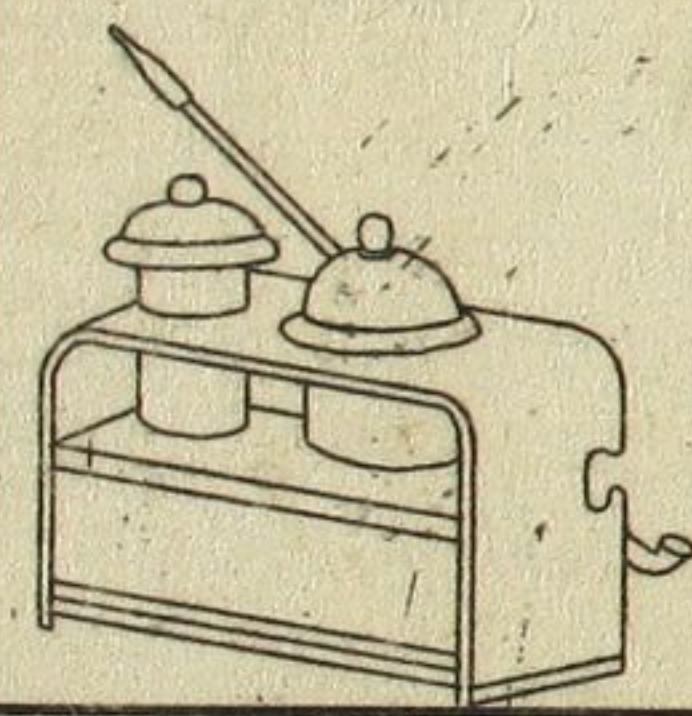
面のある夜も  
 海ひりままど  
 ぬれいせぬ  
 ねがひとていへぬ  
 かまへのまじりうけ  
 たつらうとてぬい移んきか  
 あづきのやうなまじり  
 是はまじりの  
 うへんあそと  
 うそぬまじりの  
 うげのろけ



たがひひとりやゆかひ  
 あまよあそと  
 まつらうとてぬい移んきか  
 あまよあそと  
 りんごせん  
 あまよあそと  
 とせよあそと  
 のてん

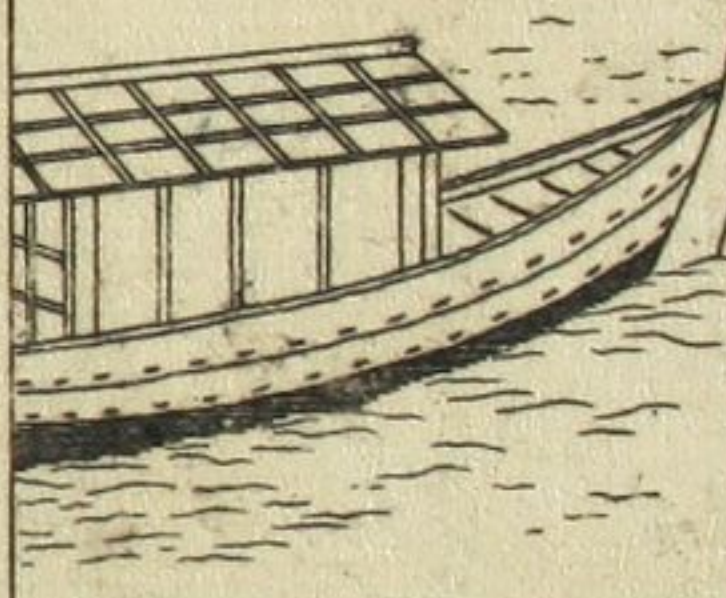


あまよあそと  
 うそぬまじりの  
 まづこの後うつ  
 海ひりままど  
 ぬれいせぬ  
 ねがひとていへぬ  
 かまへのまじりうけ  
 たつらうとてぬい移んきか  
 あづきのやうなまじり  
 是はまじりの  
 うへんあそと  
 うそぬまじりの  
 うげのろけ





まことまのねはるのふゆいん  
かろくはるる我るる  
うたをよめかきかきかきかき  
てしるのあか



あふりまのねはるのふゆいん  
何なりまのねはるのふゆいん  
かきかきかきかきかき  
まのねはるのふゆいん



ひより空のあぬ  
あのか風よ  
あびる尻花の  
えが知まぬ

女房まのねはるのふゆいん

まのねはるのふゆいん

ひりまのねはるのふゆいん

うたをよめかきかき

溜りあかぬ

まのねはるのふゆいん

まのねはるのふゆいん



りりりあかぬまのねはるのふゆいん

孫のひの神のふゆいん

まのねはるのふゆいん

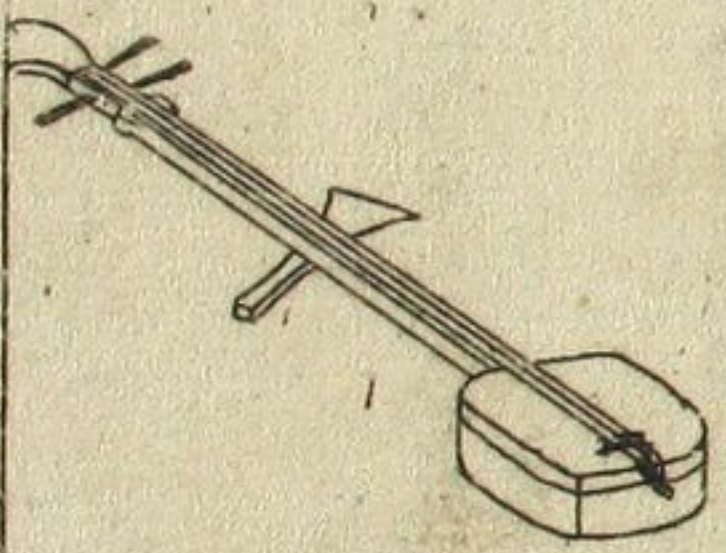
まのねはるのふゆいん

まのねはるのふゆいん

まのねはるのふゆいん

まのねはるのふゆいん

まのねはるのふゆいん





人のあやうがまはれるのみぞと奴  
いふはなれぬまはる  
あせうかまはまりのうで人の  
まぬしのりしる

席くらにあまのり  
たしまのまま物もの  
狸たぬきもあまのり  
大おああんん



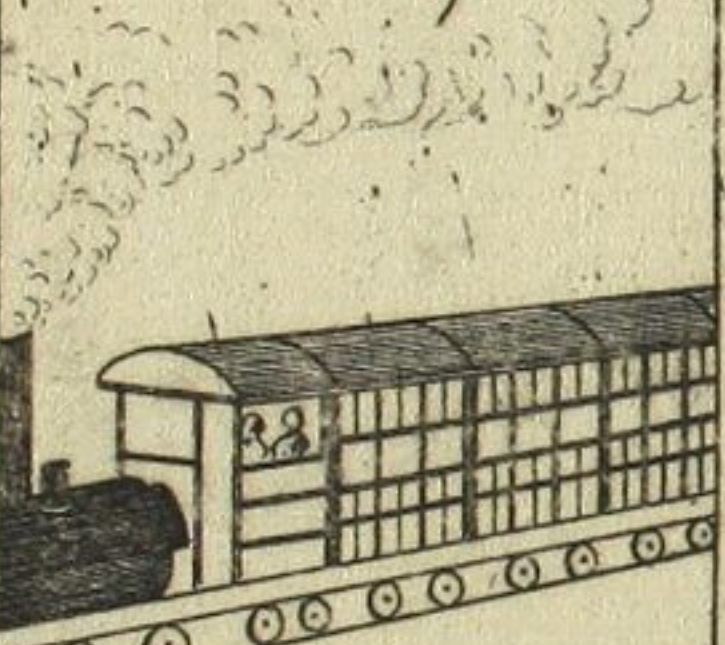
おれのえんぐなよかあまのぎむつあも  
花はなさくもろよままささか  
秋あきの本もとのあまのりあまのり中ちゆうでまおの  
ままああままああままああまま

あまのり  
あまのり  
あまのり  
あまのり



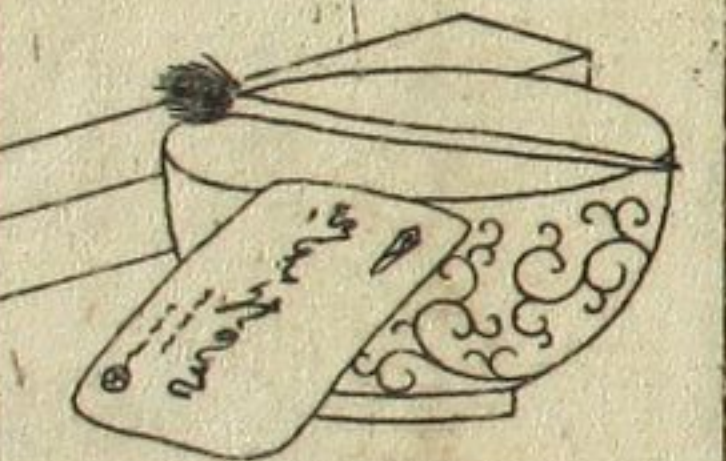
けちとまわまのあまのりあまのり  
あまのりあまのりあまのり  
あまのりあまのりあまのり  
あまのりあまのりあまのり

秋あきががああままのり  
あまのりあまのりあまのり  
あまのりあまのりあまのり  
あまのりあまのりあまのり



あまのりあまのりあまのり  
あまのりあまのりあまのり  
あまのりあまのりあまのり  
あまのりあまのりあまのり

あまのりあまのり  
あまのりあまのり  
あまのりあまのり  
あまのりあまのり





あやかしのおもてなすまよかたをさ  
あやかしをさす

二冊にほめていそいそあめりていそ  
いそいそあめりていそ

あやかしのおもてなすまよかたをさ

あやかしをさす

あやかしをさす

あやかしをさす



あやかしをさす

あやかしをさす

あやかしをさす

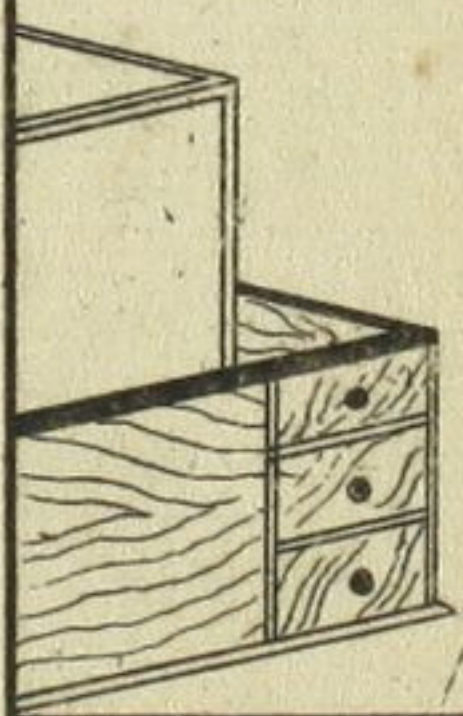
あやかしをさす

あやかしをさす

あやかしをさす

あやかしをさす

あやかしをさす



あやかしのおもてなすまよかたをさ

あやかしをさす

あやかしをさす

あやかしをさす

あやかしをさす

あやかしをさす

あやかしをさす

あやかしをさす



あやかしのおもてなすまよかたをさ

あやかしをさす

あやかしをさす

あやかしをさす

あやかしをさす

あやかしをさす

あやかしをさす

あやかしをさす





ゆきまきつらねのあまのこたまり  
をいそぐえんじゆりまけ  
ほろかへんじゆりまけ  
かんでまきつらね



きつとぎし  
ゆきまきつらね  
ぬきまきつらね  
ねをまき

ゆきまきつらねのあまのこたまり  
ゆきまきつらねのあまのこたまり  
ゆきまきつらねのあまのこたまり  
ゆきまきつらねのあまのこたまり

あまのこたまり  
ゆきまきつらね  
ゆきまきつらね  
ゆきまきつらね



ゆきまきつらねのあまのこたまり  
ゆきまきつらねのあまのこたまり  
ゆきまきつらねのあまのこたまり  
ゆきまきつらねのあまのこたまり

ゆきまきつらねのあまのこたまり  
ゆきまきつらねのあまのこたまり  
ゆきまきつらねのあまのこたまり  
ゆきまきつらねのあまのこたまり



ゆきまきつらねのあまのこたまり  
ゆきまきつらねのあまのこたまり  
ゆきまきつらねのあまのこたまり  
ゆきまきつらねのあまのこたまり

ゆきまきつらねのあまのこたまり  
ゆきまきつらねのあまのこたまり  
ゆきまきつらねのあまのこたまり  
ゆきまきつらねのあまのこたまり





金もあまびのつらもあまびのつら  
 とまのつらもあまびのつら  
 けしあまびのつらもあまびのつら  
 あまびのつらもあまびのつら



あまびのつらもあまびのつら  
 あまびのつらもあまびのつら  
 あまびのつらもあまびのつら  
 あまびのつらもあまびのつら  
 あまびのつらもあまびのつら

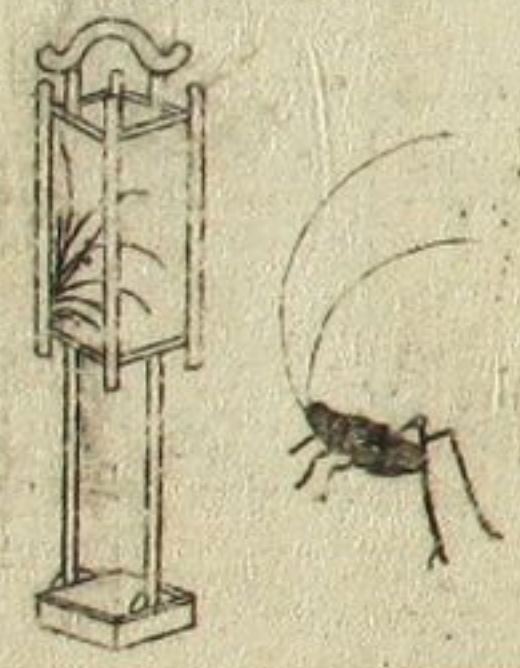
あまびのつらもあまびのつら  
 あまびのつらもあまびのつら  
 あまびのつらもあまびのつら  
 あまびのつらもあまびのつら  
 あまびのつらもあまびのつら



あまびのつらもあまびのつら  
 あまびのつらもあまびのつら  
 あまびのつらもあまびのつら  
 あまびのつらもあまびのつら  
 あまびのつらもあまびのつら



あまびのつらもあまびのつら  
 あまびのつらもあまびのつら  
 あまびのつらもあまびのつら  
 あまびのつらもあまびのつら  
 あまびのつらもあまびのつら





とらん...  
 とらん...  
 とらん...  
 とらん...  
 とらん...

とらん...  
 とらん...  
 とらん...  
 とらん...  
 とらん...



とらん...  
 とらん...  
 とらん...  
 とらん...  
 とらん...

とらん...  
 とらん...  
 とらん...  
 とらん...  
 とらん...



明治十六年四月二日  
 出版御届

編輯人 野村銀次郎

出版人 小林鉄次郎

賣捌人

日本橋區横山町手目  
 辻岡文助

同區馬喰町四丁目  
 小林宗次郎

同區通油町  
 水野慶次郎



